

THREE COLOUR
ILLUSTRATED INSECTS OF JAPAN
BY
MASAYO KATO

Fasc. III
HOMOPTERA

分類

原色日本昆蟲圖鑑

加藤正世著

第三輯
同翅目
(せみ科・つのぜみ科)

厚生閣

TOKYO MCMXXXIII

THREE COLOUR
ILLUSTRATED INSECTS OF JAPAN
BY
MASAYO KATO

Fasc. III
HOMOPTERA

分類

原色日本昆蟲圖鑑

加藤正世著

第三輯
同翅目
(せみ科・つのぜみ科)

厚生閣

TOKYO MCMXXXIII

486
Ka 641b



268549

は し が き

本書には同翅目の一部たるせみ科とつづみ科とを収めました。蟬は最も世人に親しみ深い昆虫、角蟬は形の珍奇なので著名であります。形が小さいのと、體の構造が植物の芽又は瘤に似て居る爲発見が困難なので餘り人目に觸れません。此處には著者の蒐集した代表的のものを擴大して出しました。

圖版の内第1より28迄は半七、29以下は光村兩製版所の製版印刷に成るものであります。

二五九三年二月

著 者 識 す

[1]

分類原色日本昆蟲圖鑑目錄

- 第一輯 革翅目, 直翅目 (Fasc. I Dermaptera and Orthoptera)
- 第二輯 蜻蛉目 (Fasc. II Odonata)
- 第三輯 同翅目 (Fasc. III Homoptera: Cicadidae and Membracidae)
- 第四輯 同翅目 (Fasc. IV Homoptera: Fulgoridae and others)
- 第五輯 異翅目, 脈翅目その他 (Fasc. V Heteroptera, Neuroptera and others)
- 第六輯 鱗翅目 (蝶) (Fasc. VI Lepidoptera: Rhopalocera)
- 第七輯 鱗翅目 (蛾) (Fasc. VII Lepidoptera: Heterocera)
- 第八輯 鞘翅目 (Fasc. VIII Coleoptera)
- 第九輯 鞘翅目 (Fasc. IX Coleoptera)
- 第十輯 雙翅目, 膜翅目 (Fasc. X Diptera and Hymenoptera)

内 容

1 同翅目 HOMOPTERA

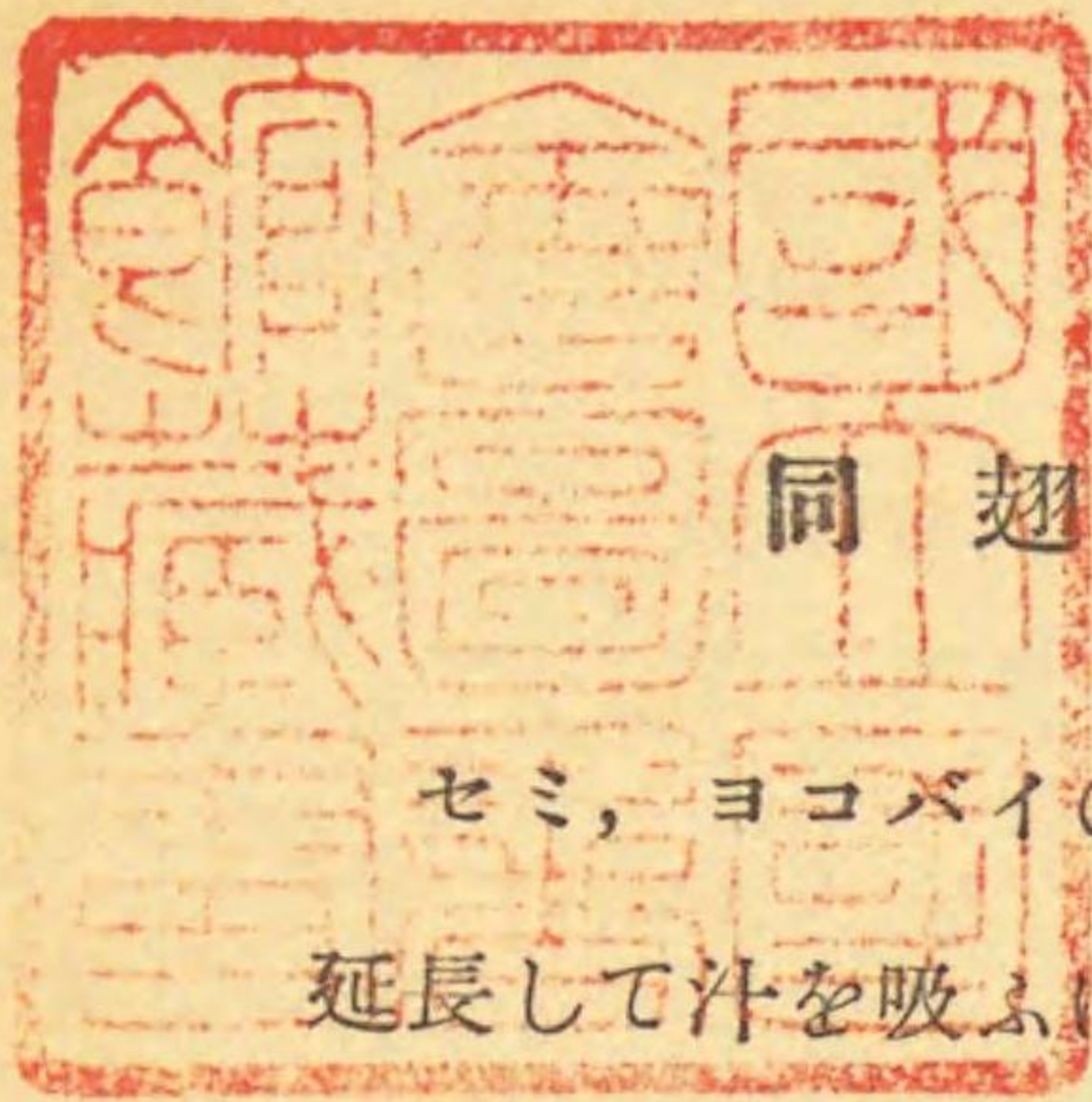
蟬及び角蟬の採集と標本の作り方

2 圖 解

3 索 引

昆蟲趣味の會に就いて

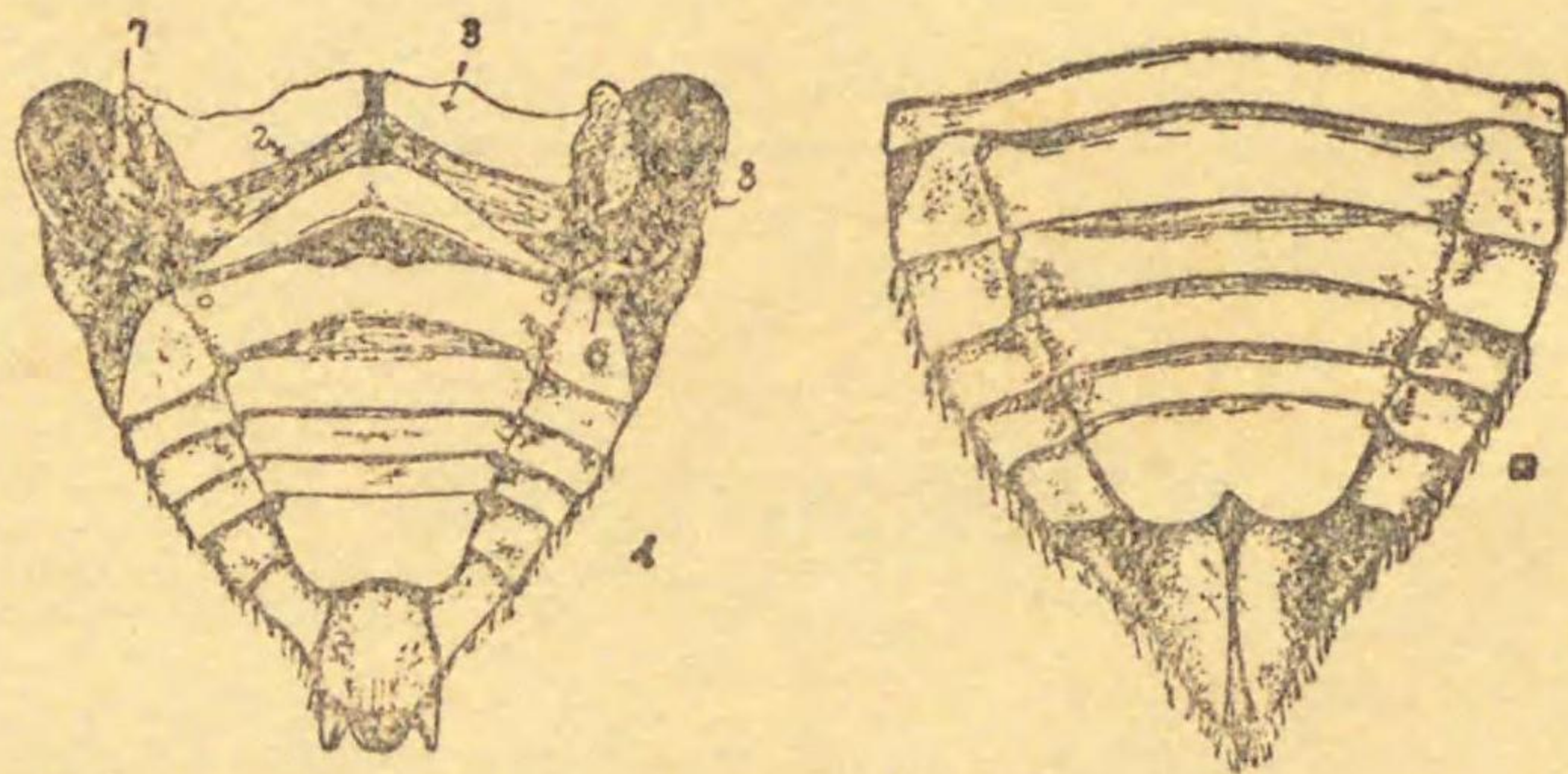
厚生閣發行昆蟲圖書目錄



同翅目 HOMOPTERA

セミ、ヨコバイの類を同翅目と云ひます。口は管状に延長して汁を吸ふに適し、翅は前後翅共に膜質で、前翅は一般に後翅よりも厚く、アハフキムシ類では特に顯著であります。この様に翅質が同一の厚さである爲に同翅目の名が付けられたのですが、例外としてトゲアハフキ科中の *Hindoloides* 属のものは恰も異翅目の如く翅端は極めて薄い膜質であります。

同翅目中、最もよく知られた昆虫は蟬の類であります。蟬の発音器は總ての動物を通じて最も機械的に構成されたものでありまして、雄蟬の腹部全體が發音器となつて居るのであります。

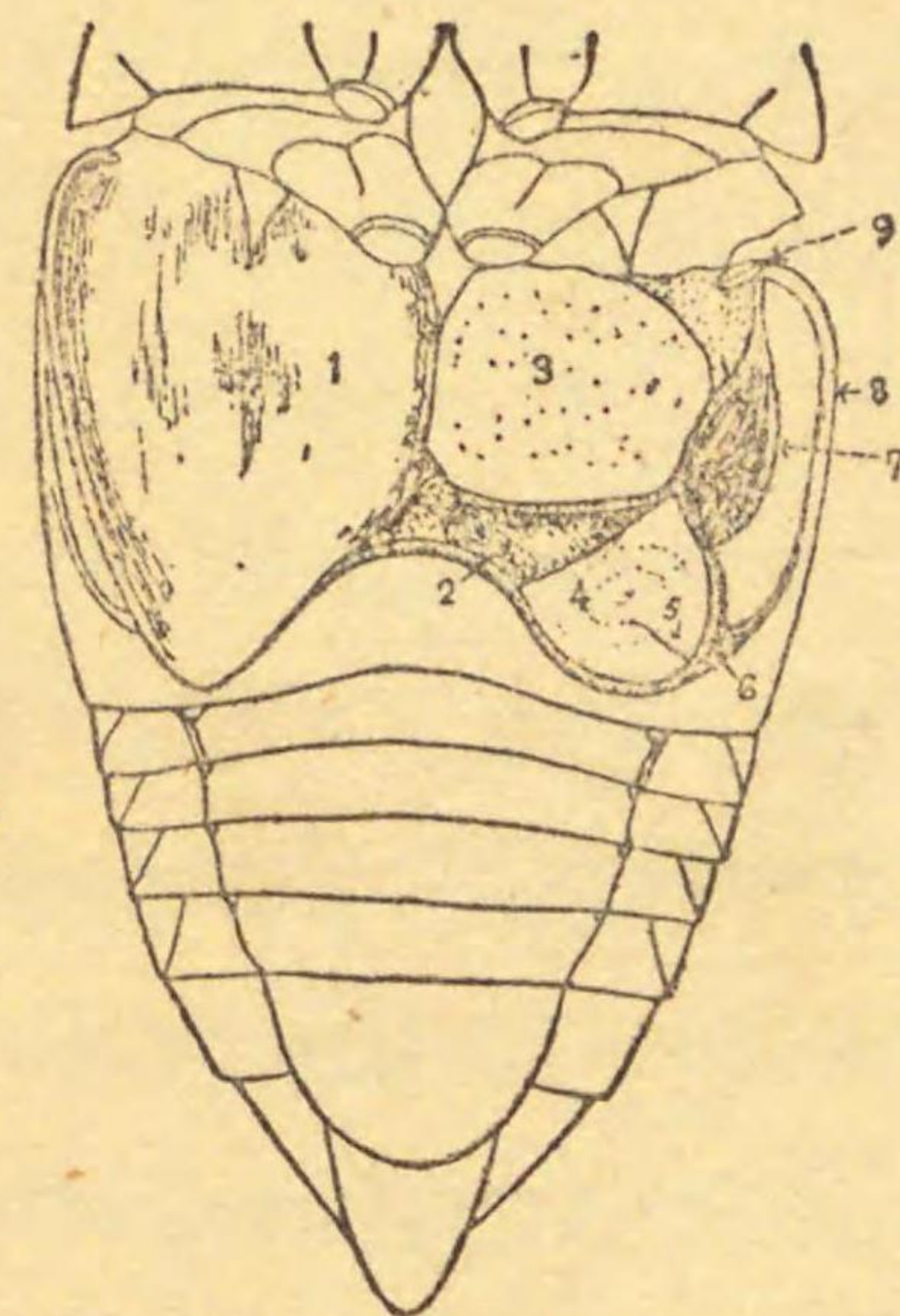


第1圖 アブラゼミの腹部 (イ) 雄 (ロ) 雌

第1圖はアブラゼミの腹部の構造を示したもので、雌

雄は斯くの如くに異つて居るのであります。各種類を通じて發音器の構造は殆ど同様でありまして、次の諸器官に依つて組み立てられて居ります。(第2、第3兩圖はタイワクマゼミの發音器を示したものでありまして、番號は次の諸部分の解説と對稱してありますから、それに依つて各部の名稱を知つて頂きたいと思ひます。)

- 1 腹瓣 Operculum
- 2 翼狀板 Wing plate
- 3 關節膜 Segmental membrane
- 4 鏡膜 Mirror
- 5 聽感突起 Chordnotal process
- 6 聽器囊 Auditory capsul
- 7 鼓膜 Tymbal
- 8 背瓣 Tymbal covering
- 9 第三氣孔 Third spiracle
- 10 發音筋 Sound muscle
- 11 腱盤 Tendon plate
- 12 腱突起 Tendon process



第2圖 タイワクマゼミ雄の腹部

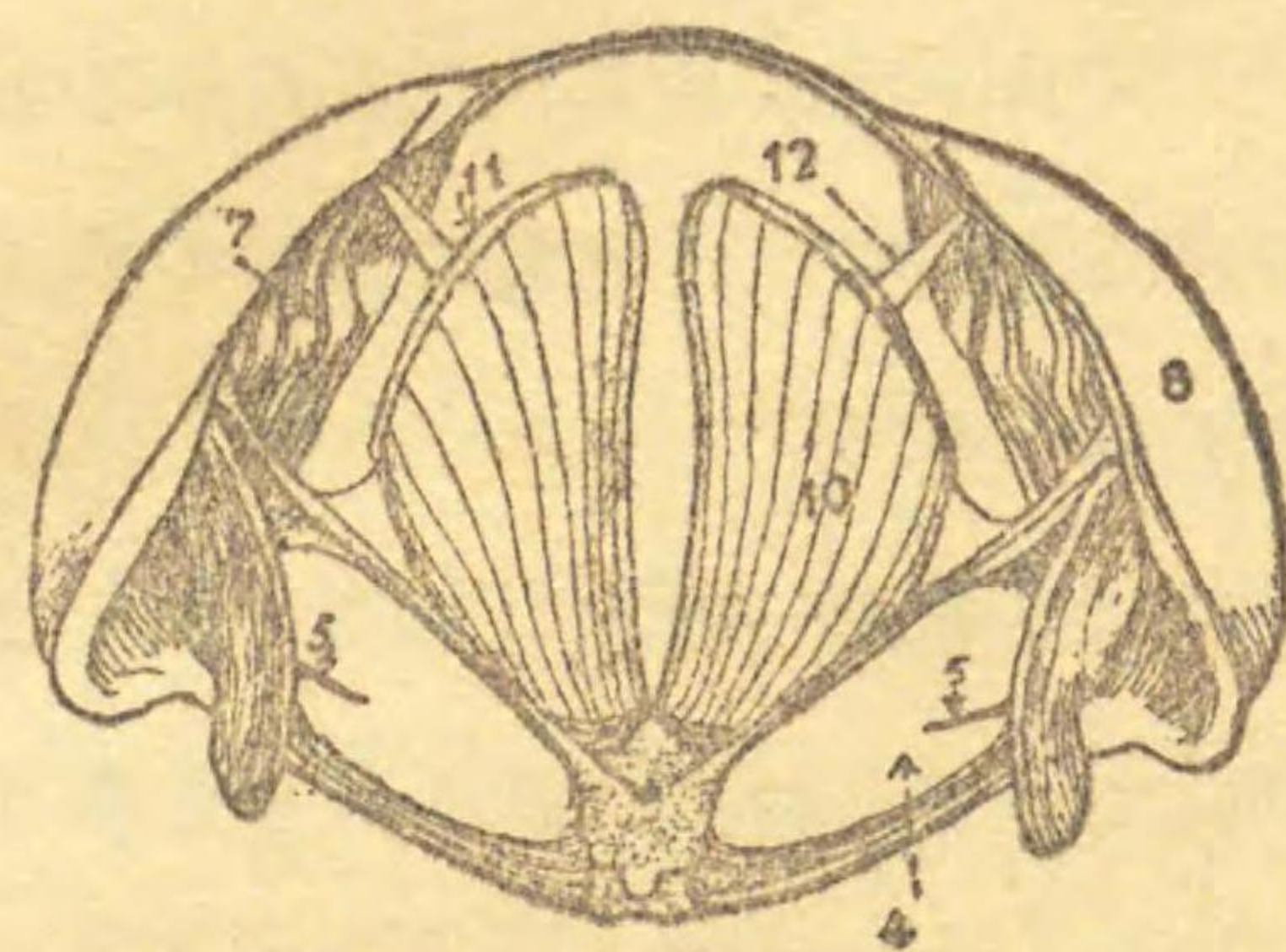
以上の内2、5、6は直接發音に關係ありません。又

8は種類に依つて無いものもあります。

音の出る原理を述べて見ますと、發音神経の刺戟に依つて發音筋(10)が細かい振動を始めます。するとその兩端に附着して居る臑突起(12) (これは臑盤に依つて發音筋に附着して居ります) が鼓膜(7)を引きます。この場合引かれた鼓膜は音を發し、筋肉が元の形に復す時は鼓膜自身の弾力に依つて鼓膜が元の位置に復し、その際に音を發します。實驗上鼓膜の發する音は引いた時の方が戻る時よりも強い音が出ます。これが非常な速度で運動しますので連続的の音となつて聞えます。丁度ラジオ受信器の磁鐵が發音筋で、音響板が鼓膜に當るのであります。然し只これだけでは極めて微弱な音しか出ませんが、この音が空虚な腹腔に響いて大きな音に擴大されます。ヒグラシやツクツクボウシの腹部を見ますと殆ど空虚で半透明に見えることは注意深い讀者諸君の既に知る處であります。雄蟬の腹腔中には氣管が變形して出來た一つの大きい護謨風船の様な囊があつて、胃、腸其他の内臓諸器官を腹壁に押しつけて居ります。この囊で出來た空所を共鳴室 (Resonant chamber) と云ひます。

共鳴室は第三氣孔(9)に依つて外界に通じて居り、腹

部を色々な動かすことに依つて容積を加減し、複雑な發音をするのであります。蟬の鳴いて居るのをよく注意し



第3圖 タイワンクマゼミの腹部
を取り外して前面から見た圖

て見ますと、腹部を持ち上げるに依つて音が大きくなりますが、それはこの動作に依つて關節膜(3)が緊張し、それに音が響き、それと同時に覆ひかぶさつて居る腹瓣(1)と腹部の間があくので音は強く聞えるのです。ミンミンはこれを連続的に行ひますので強弱交互になり、ミンミンと聞えます。

蟬の音は大體似たやうな基音を有するのですが、運動方法が違ふ爲各種類に依つて特徴のある音を發するのであります。背瓣(8)は腹部の第二關節が延びて鼓膜を覆ふて居るものであります。發音には何等關係がありません。大形のものもあれば、ハルゼミの様に小形のもの、チツチゼミの様に全然無いものもあります。

音を出す以上それを聴く耳が無ければなりません。蟬

の耳は近年になつてその存在が判明したのであります。是迄發音器の一部として知られて居た鏡膜(4)が耳なのです。これは小さい乍ら雌にもありまして、これに響いた音が(5)の聽感突起を傳はつて聽器囊(6)内にある聽神經に達して聞えるのです。

同翅目は一般に錐の様な産卵管で卵を植物の組織中に産みつけます。蟬は孵化後土中に入つて根から養液を吸つて成長しますが、その期間は相當長いもので、日本の蟬では何一つ判つて居ませんが、少く共十年近くは要するものと考へられます。

ツノゼミの類は昆蟲の内の道化者と云はれて居る程、形の面白いもので、日本には餘り變化の甚だしいものは居りませんが、熱帯地方には想像もつかない位奇抜な形をしたものがあります。

ツノゼミは名の如く角のある蟬ですが、多くは小型の種類で、私は世界各國から六百種類程蒐めました。一番大型と思はれるものでも十五耗位で、普通は平均七耗位なものであります。日本産のものは更に微小なものが多いのでありますから、採集しようと思へば、餘程の注意がいります。

ツノゼミの前胸背は非常に大きく、後方に棘の様に延びて後部突起となり、更に牛の角の様に左右に突出して角状突起と云ふものを形作つて居ります。これが基本的の形であります。マルツノゼミは角状突起が無く、イカリツノゼミはパラソルの様な柄の上に角状突起と後部突起とがあります。前胸背は更に種々様々に變化して色々な面白い形となるのです。處が仔蟲時代には全く角の様なものが無く、羽化した時見る見る内にゴム風船の様に膨れて來ます。従つて中空ですから重量は別にかゝらないとしても飛翔中にはさぞ空氣の抵抗が多いことと思はれます。

この類は植物の枝等に産卵し、五回の變態を経て親になるものであります。

蟬及び角蟬の採集と標本の作り方

蟬の内でも餘り敏捷でないものは捕蟲網で捕へることが出來ますが、成る可くはとりもちで採集するのが安全です。私は常に魚釣り用の繼ぎ竿を携帯して居りますが、長さ五米突もあれば充分間に合ひます。とりもちは揮發油を脱脂綿に附けて拭へば綺麗に落すことが出來ます。

蟬の標本は最も簡單で、中胸背の後方X字形隆起と稱

する部分の少し前方に針を刺したゞけでいゝのです。研究用としては雌雄一頭宛を展翅しなければなりませんから、展翅板は特に溝幅の廣いものを準備して置く必要があります。

本書に圖説したツノゼミ類は灌木、雑草等に棲息して居るものですが、形が植物體の一部分の様に見えるので、発見は中々困難です。その代り亂獲採集をやれば偶然に獲られます。然し網にはいつでも形が小さいのでごみと見誤つて捨てないとも限りませんから注意を要します。御斷りして置きますが、蟬と云つてもこの類に發音器はありません。

標本とするには重裝式と稱するやり方が研究上便利ですが、臺紙にタラカンドゴムで粘着しても差問へありません。この方法は多くの小形昆蟲に用ひられます。

蟬類は私の専門に研究して居る部類であります。最近中央氣象臺からの依頼に依り、蟬に関する諸般の調査を行ふことゝなりました。その目的は農業氣象に関するものでありまして、目下全國的に調査の歩を進めて居りますが、讀者諸賢の御協力を得て一層徹底を期したいと

思ひます。次の諸項に就き御助力願はれゞば幸であります。

- 1 蟬聲の初聴きと聴き納めの日(但し當日の天候共)
- 2 分布調査資料として標本の寄贈(各種に方言を記した紙片を附し、標本は丈夫な木箱に綿を敷き、その上に置いて、更に綿で覆ひ、第四種郵便物として送られ度し)。
- 3 宛名は東京市世田谷區野澤町一丁目二五六番地昆虫趣味の會。
- 4 寄贈標本は永久に保存して、調査の資料と致します。

Plate 1 同翅目

[せみ科]

- 1 ニイニイゼミ (♀) *Platypleura kaempferi* Fabricius.
 [分布] 千島, 北海道, 本州, 四國, 九州, 朝鮮 (VI-IX), 臺灣 (V-VIII), 支那, 馬來半島, ボルネオ。
 ジ—又はシ—に似た音を出す。
- 2 ヤヘヤマニイニイ (ニイニイゼミの變種) (♀) *Platypleura kaempferi* Fabricius var. *yayeyamana* Matsumura.
 [分布] 琉球 (八重山, 沖繩島)
 前胸の兩側が直角に近い角度で突出して居ること, 前翅縦脈端の斑紋が小形なること等に依り原種と區別される。
- 3 クロイハニイニイ (♂) *Munza kuroiwae* Matsumura.
 [分布] 琉球 (沖繩島) (VI-VIII)
 後翅の外縁部が著しく幅廣きことに依り *Platypleura* 屬と區別される。
- 4 ニイニイゼミの異常型 (♂) *Platypleura kaempferi* Fabricius ab. *kyotonis* Kato.
 [分布] 本州 (京都)
 前翅縦脈端の斑紋が小形で, 癒合して居ない點が原種と異なる特徴である。
- 5 ミヤコニイニイ (♂) *Platypleura? miyakona* Matsumura.
 [分布] 琉球 (宮古島)
- 6 キンタニイニイ (♂) *Platypleura hilpa* Walker.
 [分布] 臺灣 (澎湖島) (VII), 南支那, 海南。
 本種は澎湖島のみ産するも臺灣本島よりは發見されない。支那大陸との地理的關係を物語る興味深い資料である。



1



2



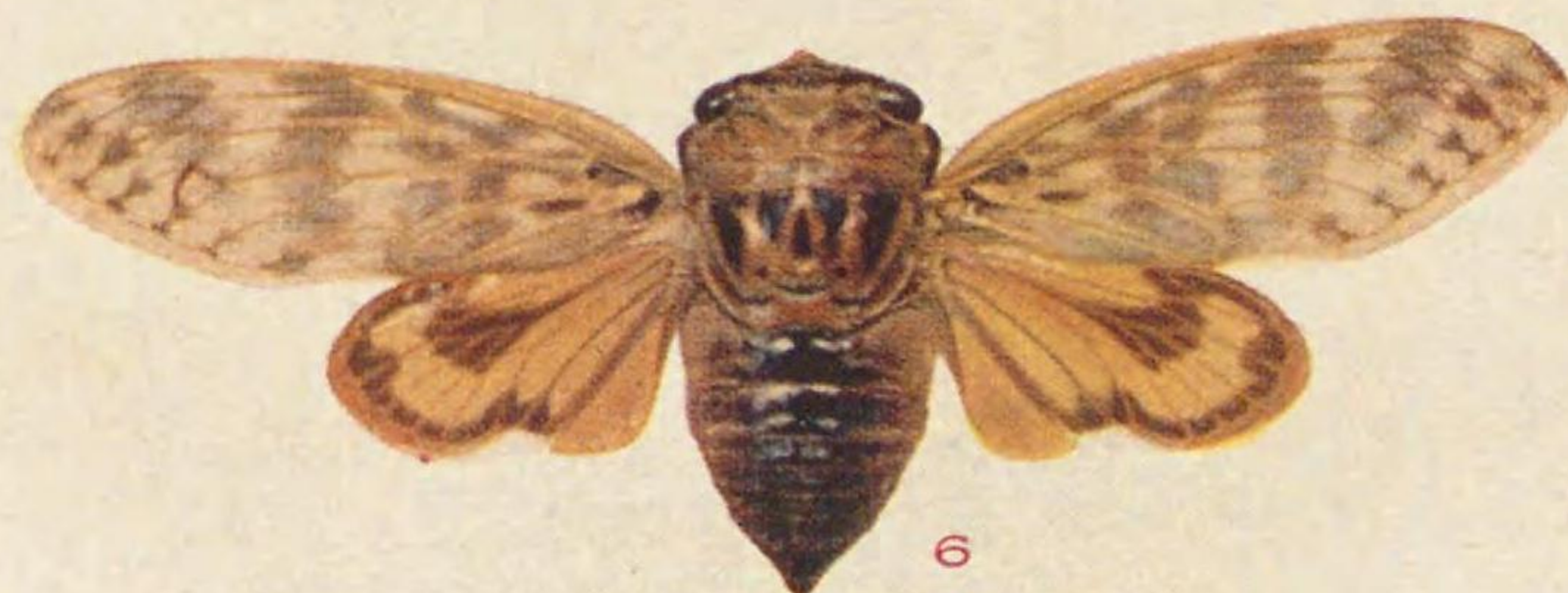
3



4



5



6

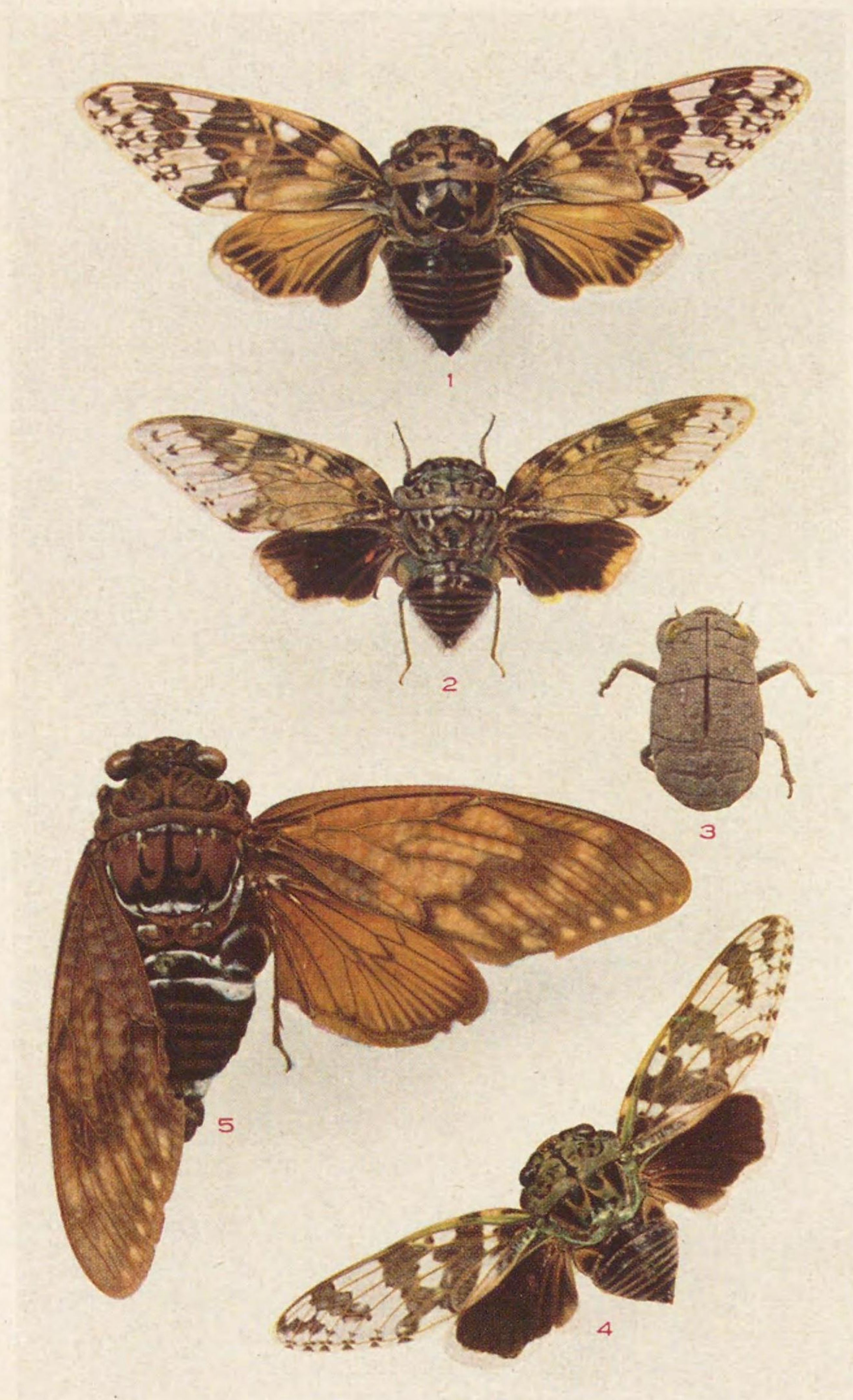


Plate 2 同翅目

〔せみ科〕

- 1 テウセンニイニイ (♀) *Suisha coreana* Matsumura.

〔分布〕 朝鮮, 滿洲 (IX-X)

寒冷の候に現はれ, チイチイチイチーと鳴くと云ふ。

- 2 ケナガニイニイ (♂) *Suisha formosana* Kato

〔分布〕 臺灣 (I-V)

著者は初めて日月潭畔, 水社に於て發見し, それを記念して屬名を *Suisha* と決定した。他の地方では未だ採集したことがない。チツチツチツチーと鳴く。

- 3 ニイニイゼミ (蟬蛻)

- 4 コニイニイゼミ (♂) *Platypleura takasagona* Matsumura.

〔分布〕 臺灣 (V-VIII)

鳴聲ニイニイゼミと殆ど同様である。全島到る處に多い。

- 5 リウキウアブラゼミ (♂) *Graptopsaltria bimaculata* Kato.

〔分布〕 奄美大島, 沖繩島。

琉球の方言ナービカキ (鍋掻き) と云ふ, その鳴聲から來たものである。

Plate 3 同翅目

[せみ科]

- 1 アブラゼミ (合) *Graptopsaltria nigrofuscata* Motschulsky.

[分布] 北海道, 本州, 四國, 九州, 朝鮮 (VII-X), 滿洲 (大連), ニューギニア。

最も普通なる蟬で, 或る地方ではこれを食用に供する。鳴聲ジー或はシユルゝゝゝ。

- 2 同上終齡仔蟲

- 3 エゾゼミ (合) *Tibicen japonicus* Kato.

[分布] 北海道, 本州, 四國, 朝鮮 (VII-IX)。

本州では山地性で主に赤松に多く棲むも, 處に依つては潤葉樹に普通である。鳴聲ギー或はブルゝゝゝゝに近く, 東京附近では高尾山, 武州御嶽, 筑波山等に多い。

- 4 同上蟬蛻。

- 5 アカエゾゼミ (合) *Tibicen flammatus* Distant.

[分布] 北海道, 本州, 九州, 朝鮮 (VII-IX)。

前種よりも個體数が少い。鳴聲前種同様。東京附近では筑波山に多い。

PLATE 3

×1

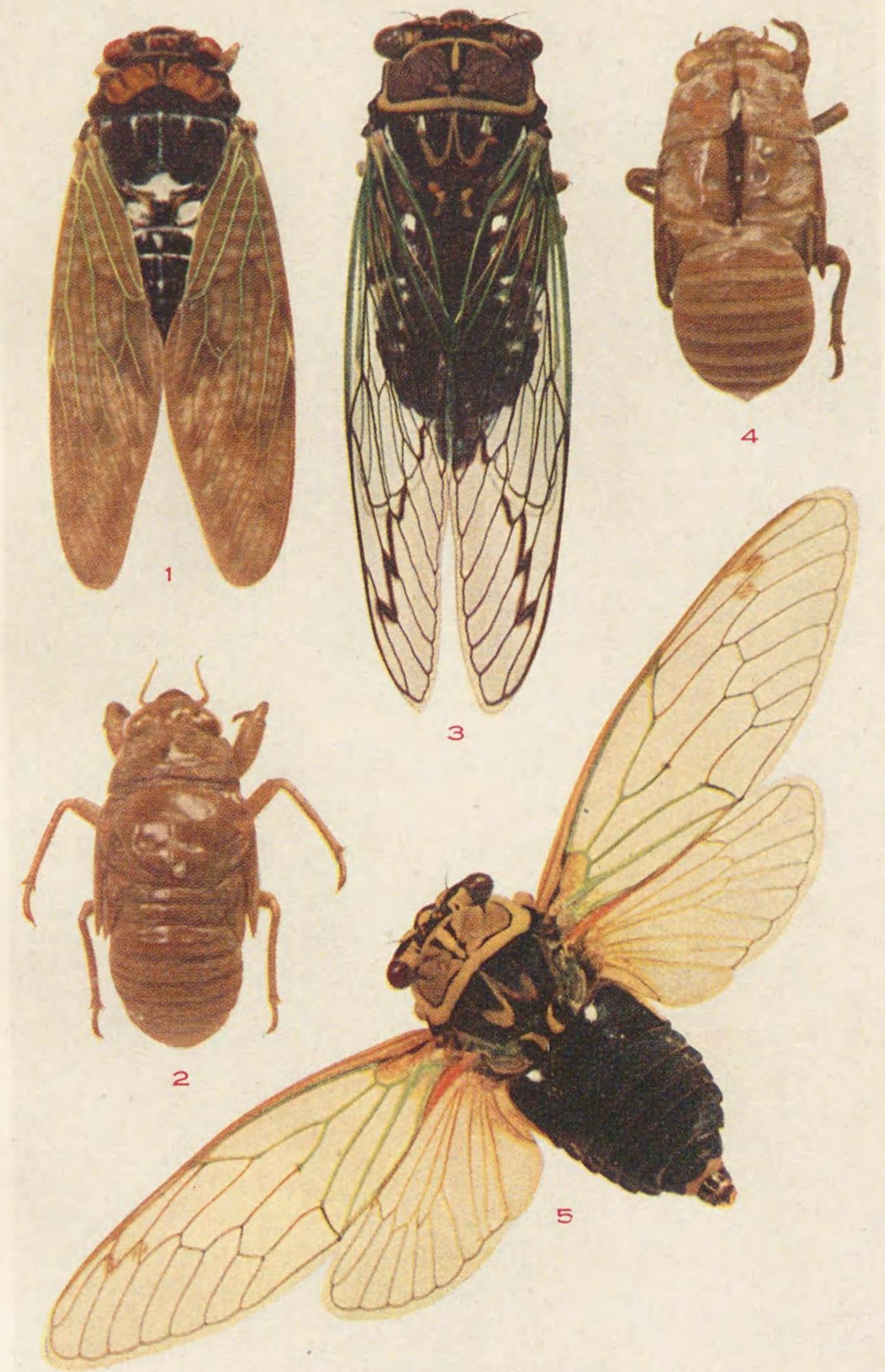




Plate 4 同翅目

〔せみ科〕

- 1 コエゾゼミ (合) *Tibicen bihamatus* Motschulsky.

〔分布〕 樺太, 千島, 北海道, 本州, 朝鮮 (VII-III)。

富士山に普通。鳴聲エゾゼミに類するもジーに近く, 種々の樹木に棲息する。

- 2 同上蟬蛻。

- 3 アカエゾゼミ變種 (合) *Tibicen flammatus* Distant

var. *adonis* Kato.

〔分布〕 本州 (筑波山) VIII。

腹背が橙黄色であることに依り原種と區別する。

- 4 ハゴロモゼミ (合) *Rihana ochracea* Walker.

〔分布〕 臺灣, 支那 (V-VIII)。

發生の初期には夕方鳴くが, 後には時間を限らず發音する。

鳴聲ジー。臺灣の平地に最も普通である。

Plate 5 同翅目

〔せみ科〕

- 1 ハゴロモゼミ變種 (♀) *Rihana ochracea* Walker
var. *interrupta* Kato.

〔分布〕 臺灣。

基本型では頭部の前縁に黒帯があるが、本型は額上にのみそれが無いので容易に區別出来る。

- 2 ハゴロモゼミの蟬蛻。

- 3 ツマグロゼミ (♂) *Nipponosemia terminalis* Matsumura.

〔分布〕 琉球 (宮古島, 石垣島), 支那四川省。

- 4 ナガシマコエゾゼミ (♂) *Tibicen nagashimai* Kato.

〔分布〕 北海道。

寫眞は Type specimen.

- 5 キウシウエゾゼミ (♂) *Tibicen kyushyuensis* Kato.

〔分布〕 九州。

寫眞は Type specimen.



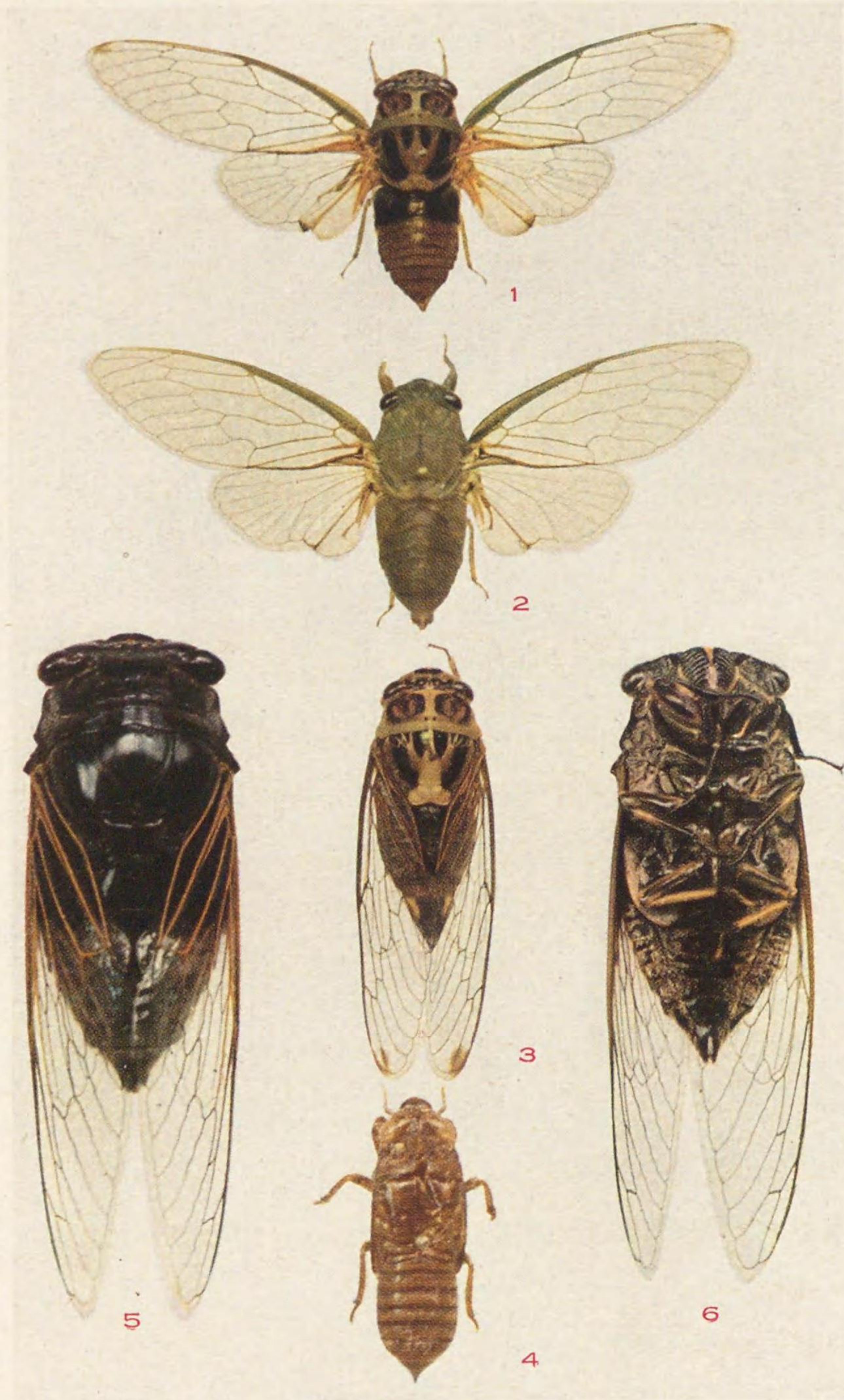


Plate 6 同翅目

[せみ科]

- 1 タイワンツマグロゼミ (♂) *Nipponosemia fusco-plaga* Schumacher.

[分布] 臺灣 (VI—VII)。

鳴聲ジ—! ジ—! ジ—! 灌木の小枝に止る爲捕獲頗る困難。

- 2 コウシユンハゴロモゼミ (♂) *Nipponosemia virescens* Kato.

[分布] 臺灣 (恒春) (V—VII)。

鳴聲, 習性前種に似て居る。

- 3 タイワンツマグロゼミ (♀) *Nipponosemia fusco-plaga* Schumacher.

[分布] 臺灣 (V—VII)。

- 4 同上蟬蛻。

- 5 スヂアカクマゼミ (♂) *Cryptotympana pustulata* Fabricius.

[分布] 臺灣 (VII—IX), 支那, 馬來半島, オーストラリア?

臺灣では北部及び西海岸近くに多く, シユルハハハハに似た鳴音を出す。

- 6 同上腹面。

Plate 7 同翅目

〔せみ科〕

- 1 リウキウクマゼミ (♂) *Cryptotympana okinawana*

Matsumura.

〔分布〕 琉球 (石垣島) (VII—VIII)。

- 2 タカサゴクマゼミ (♀) *Cryptotympana takasagana*

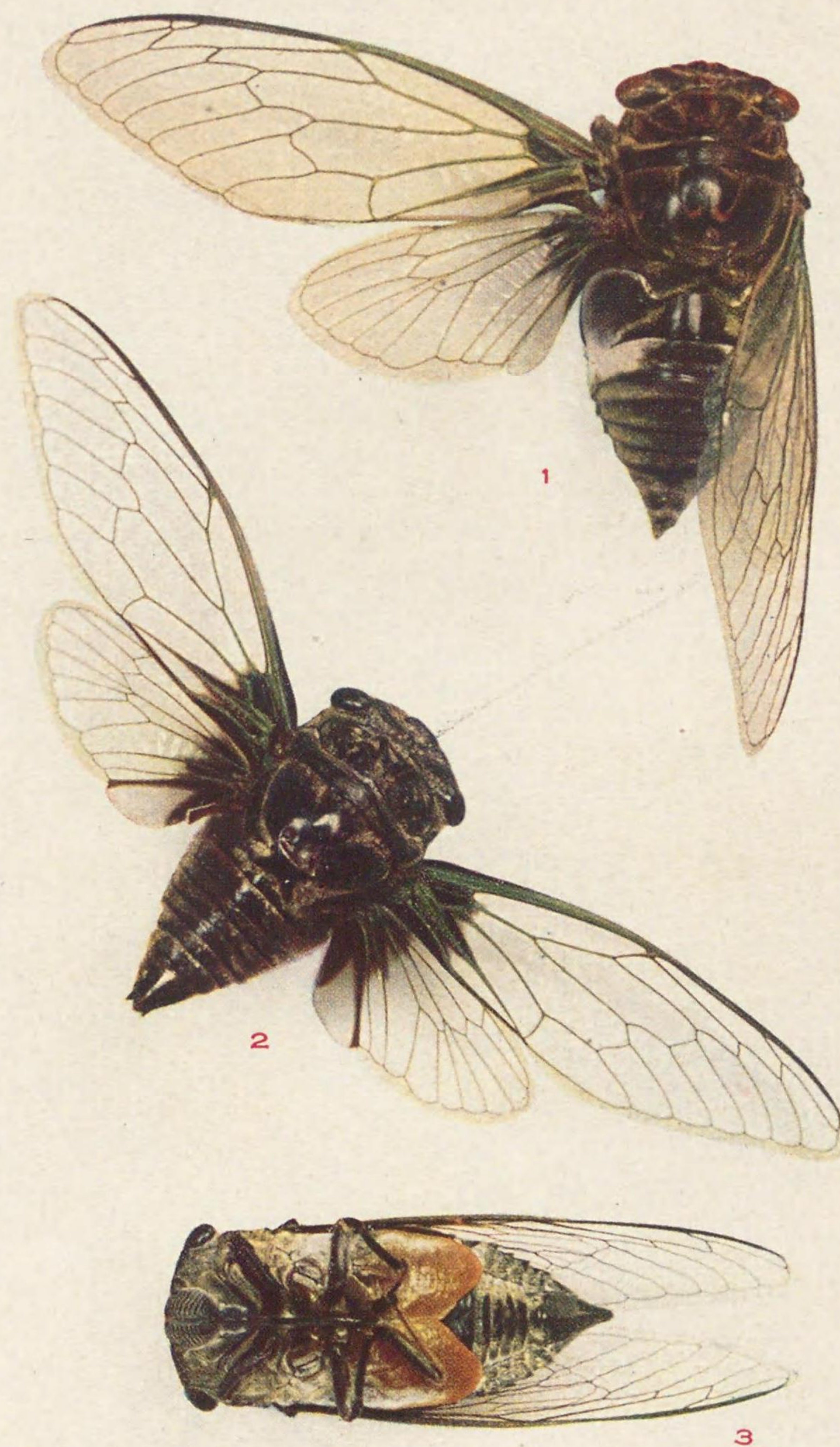
Kato.

〔分布〕 臺灣 (VI—IX)。

鳴聲キシキシキシチゝゝゝゝ！ 性質内地のクマゼミと

異り、常に一定の場所に静止して鳴き続ける。

- 3 同上 (♂) 腹面



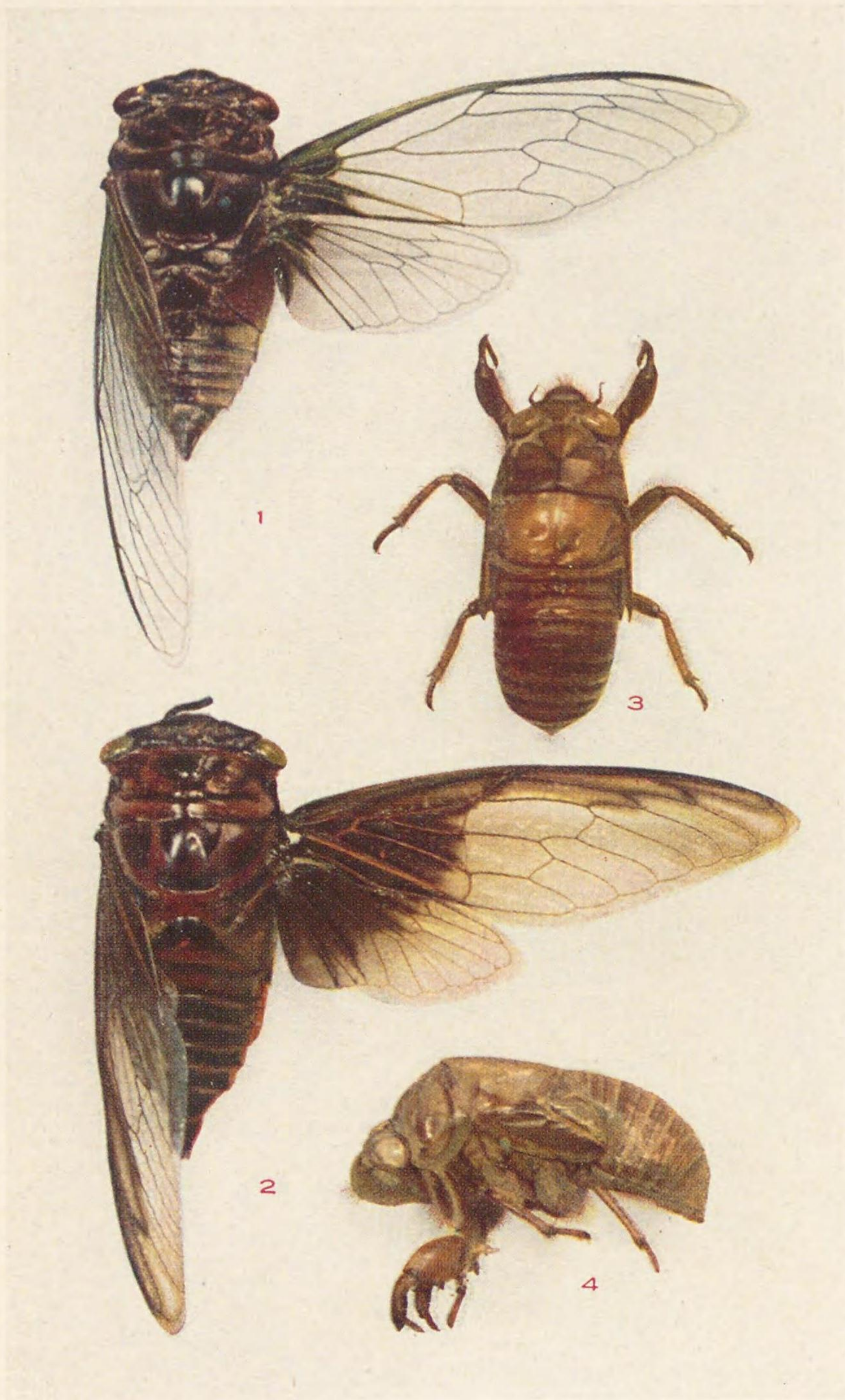


Plate 8 同翅目

〔せみ科〕

- 1. カシヨウクマゼミ (♂) *Cryptotympana argenteus*

Kato.

〔分布〕 臺灣 (火燒島)。

寫眞は Type specimen.

- 2. マヘグロクマゼミ (♂) *Cryptotympana aquila*

Walker.

〔分布〕 臺灣, 馬來。

- 3. テウセンクマゼミの終齡仔蟲 *Cryptotympana core-*

ana Kato.

- 4. タカサゴクマゼミの蟬蛻

Plate 9 同翅目

〔せみ科〕

- 1 テウセンクマゼミ (合) *Cryptotympana coreana*

Kato.

〔分布〕 朝鮮, 支那 (芝罘, 青島) (VII-IX)。

本種は朝鮮で苹果樹その他果樹類の稚枝に産卵して, 大害を
與へる。

- 2 クマゼミ (合) *Cryptotympana japonensis* Kato.

〔分布〕 本州 (關東以西の平地), 四國, 九州, 琉球 (VII-
IX) 支那 (山東省)。

鳴聲シヤアシヤアシヤア……………或はシヤヴシヤヴ, センセ
ンとも聞える。

- 3 同上の蟬蛻

クマゼミの蟬蛻は古來より藥用に供せられる。

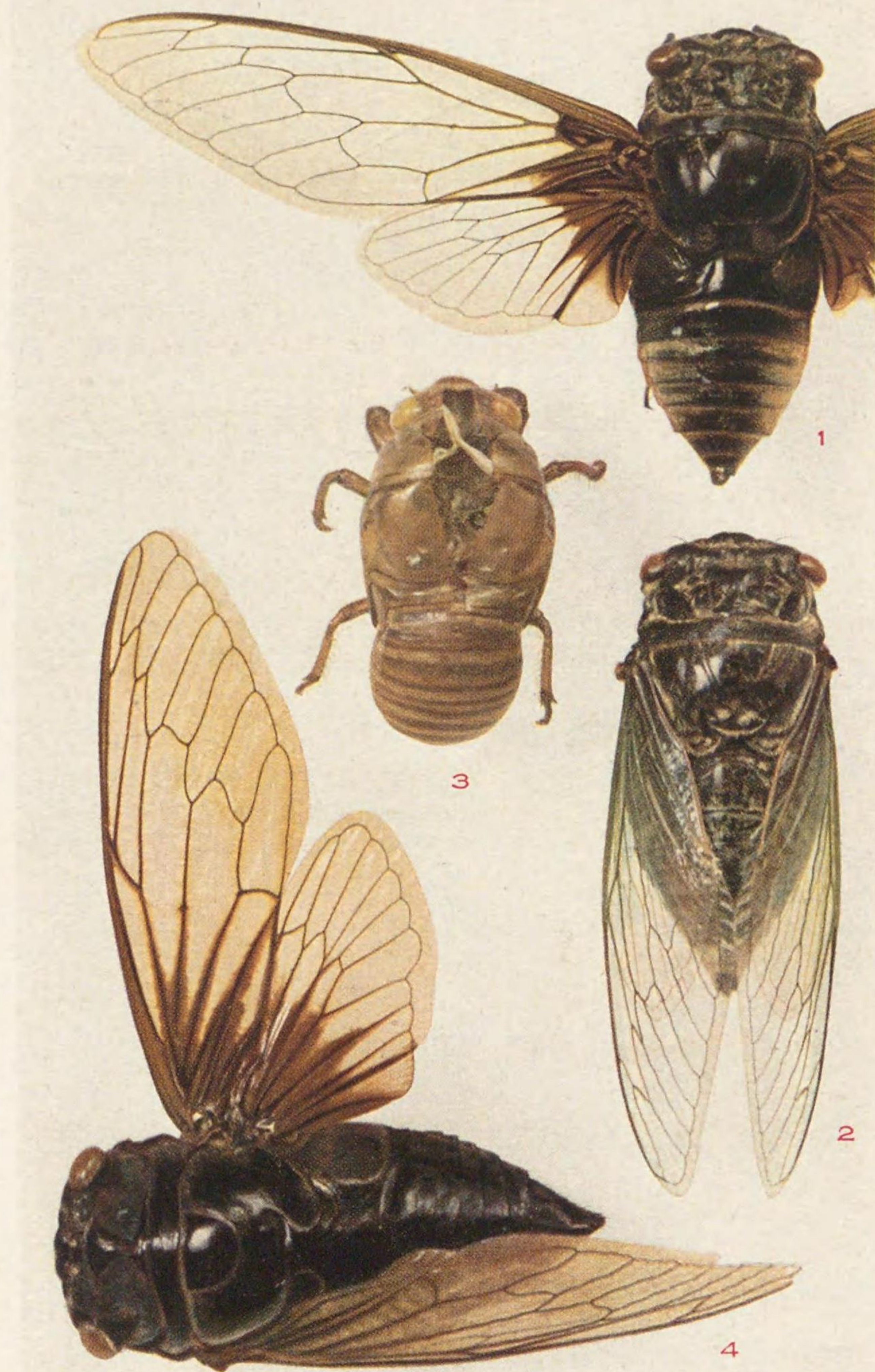
- 4 コウトウクマゼミ (合) *Cryptotympana kotoshoensis*

Kato.

〔分布〕 臺灣 (紅頭嶼)。

PLATE 9

×1





- 1 タイワックマゼミ (♀) *Cryptotympana holsti* Distant.

〔分布〕 臺灣 (VI-VII), 南支那。

臺灣ではセンダンの樹に多く、シヤアシヤアと鳴く。その聲クマゼミに似て一層大きい。個體に依り翅の地色の暗色のものがある。

- 2 同上變種 *Cryptotympana holsti* Dist. var. *takahashii* Kato.

〔分布〕 臺灣。

翅の黒色部が翅脈の兩側にのみ限られて居る點で區別するのであるが、著者は未だ雄を獲たことがない。

- 3 タイワックマゼミの蟬蛻
- 4 アブラゼミの變種(セアカアブラゼミ) *Graptopsaltria nigrofusca* Motsch. var. *badia* Kato.

〔分布〕 本州(これは普通型と並行に分布するものと思はれるが、未だ他の地方からは獲られない)。

Plate 11 同翅目

[せみ科]

- 1 ヤヘヤマクマゼミ (合) *Cryptotympana yayeyama* Kato.

[分布] 琉球 (八重山)。

- 2 ナンバンクマゼミ (合) *Cryptotympana facialis* Walker.

[分布] 臺灣, 支那, 暹羅。

PLATE 11

× 1





Plate 12 同翅目

〔せみ科〕

- 1 エゾゼミの變種 (♂) *Tibicen japonicus* Kato. var.

〔分布〕 本州 (筑波山)。

體が小形で翅が短く、前胸背後縁の兩側に黒紋を具へて居る
點で基本型と區別する。

- 2 スヂアカクマゼミ (♀) *Cryptotympana pustulata*

Fabricius.

〔分布〕 臺灣, 支那, 馬來群島, 濠洲 (?).

本種の雄は Plate 6 にある。

Plate 13 同翅目

[せみ科]

- 1 トビイロクマゼミ (♀) *Cryptotympana fusca* Kato.

[分布] 臺灣 (IV)。

- 2 タイワンヒメヒグラシ (♂) *Formosemia apicalis*

Matsumura.

[分布] 臺灣 (IV)。

山間の森林中に棲息し、ミンミンミンミイ——、ミンミンミンミイ——と多くの場合二た聲宛細い愛らしい聲で鳴く。

- 3 エゾゼミの變種 (♂) *Tibicen japonicus* Kato var.

inmaculatus Kato.

[分布] 筑波山 (VIII)。

中胸背上のW字形紋を缺くことに依り基本形と區別する。寫

眞は Type specimen.

PLATE 13

×1



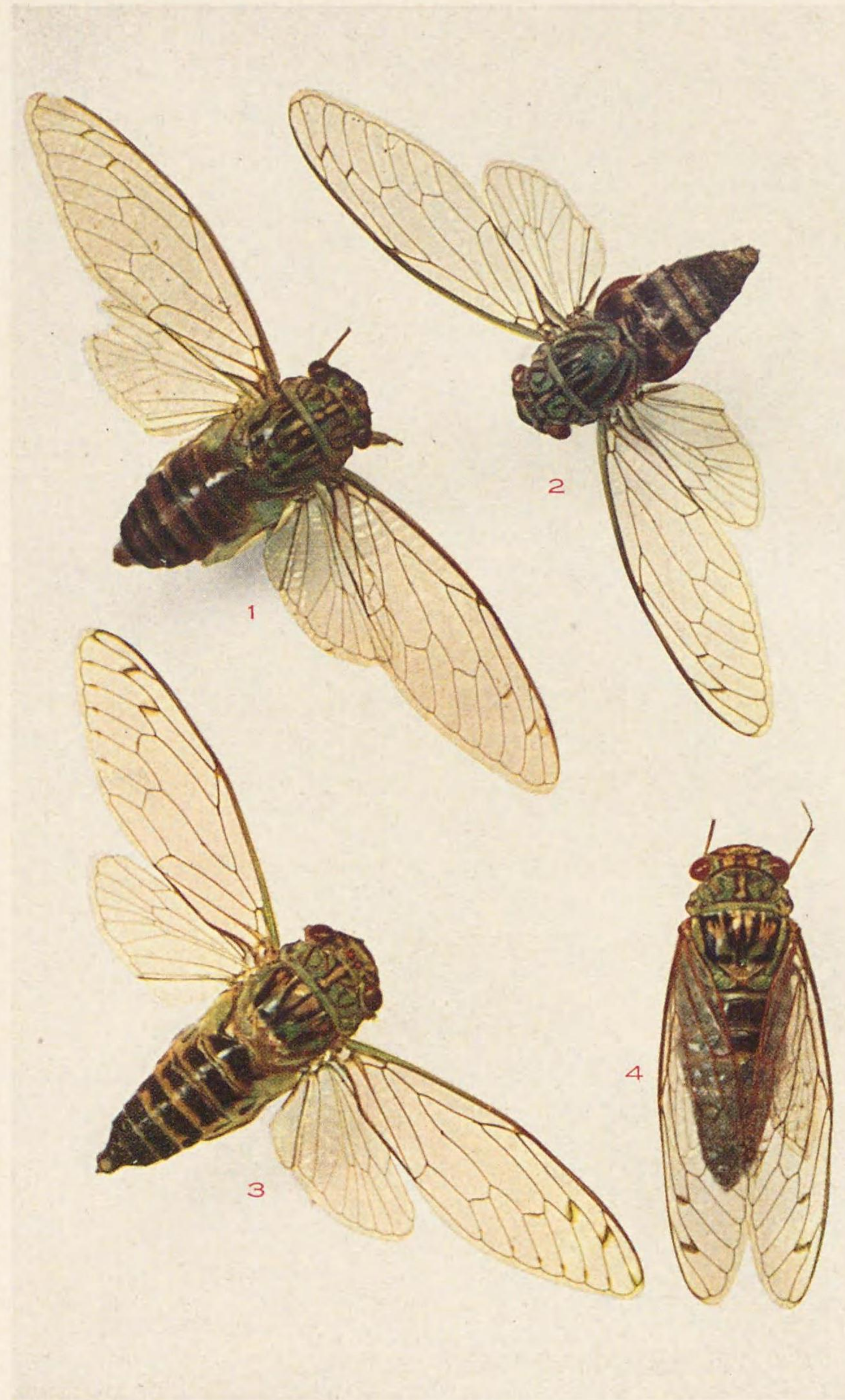


Plate 14 同翅目

〔せみ科〕

- 1 ヲガサハラツクツク (合) *Meimuna bonin-insulana*
Kato.

〔分布〕 小笠原島。

- 2 ツクツクボウシ (合) *Meimuna opalifera* Walker.

〔分布〕 北海道, 本州, 四國, 九州, 八丈島, 朝鮮, 琉球,
支那 (VII-X)。

日本に産する總ての蟬類中, 最も聲樂的の發音をするもので
ある。夏の半頃より現はれて, ツクツクオーシ, ツクツクオ
ーシ……………ツクリヨーシ, ツクリヨーシ, ジ—と鳴く。
仔蟲は土を塊めて塔を造る奇習がある。

- 3 クロイハツクツク (合) *Meimuna kuroiwae* Ma-
tsumura.

〔分布〕 琉球。

- 4 同 上 (合)

これは前翅縦脈端に斑點を缺く個體である。

Plate 15 同翅目

〔せみ科〕

- 1 ツクツクボウシの變種 (タイワンツクツクボウシ)
(♂) *Meimuna opalifera* Walk. var. *formosana* Kato.

〔分布〕 臺灣 (VII—X)。

基本型よりも小形で、前翅の縦脈端に小点がある。鳴聲に少しく違つた處がある。臺灣の山間に産するも少い。

- 2 ウライゼミ (♂) *Meimuna uraina* Kato.

〔分布〕 臺灣 (IX—翌年III)。

鳴聲ジバンジバンジバンケレーケレーケレー！初めての採集地烏來を記念して上記の名稱を附した。

- 3 ツチダゼミ (♂) *Meimuna tsuchidai* Kato.

〔分布〕 九州 (佐多岬) (VIII)。

これは佐多岬にのみ棲む珍種である。土田都止雄氏が始めて発見せられたもの。

- 4 ツクツクボウシの異常型 (♀) *Meimuna opalifera*
Walk. form. *punctata* Kato.

〔分布〕 本州 (京都)。

前翅縦脈端に小点を有することに依り基本型と區別する。

(Type specimen.)

- 5 ガコウキゼミ (♂) *Meimuna gakokizana* Matsumura.

〔分布〕 臺灣 (IX)。

最初鷲公髻山で発見されたので此の名があるが、寫眞は霧社産のものである。

PLATE 15

×1

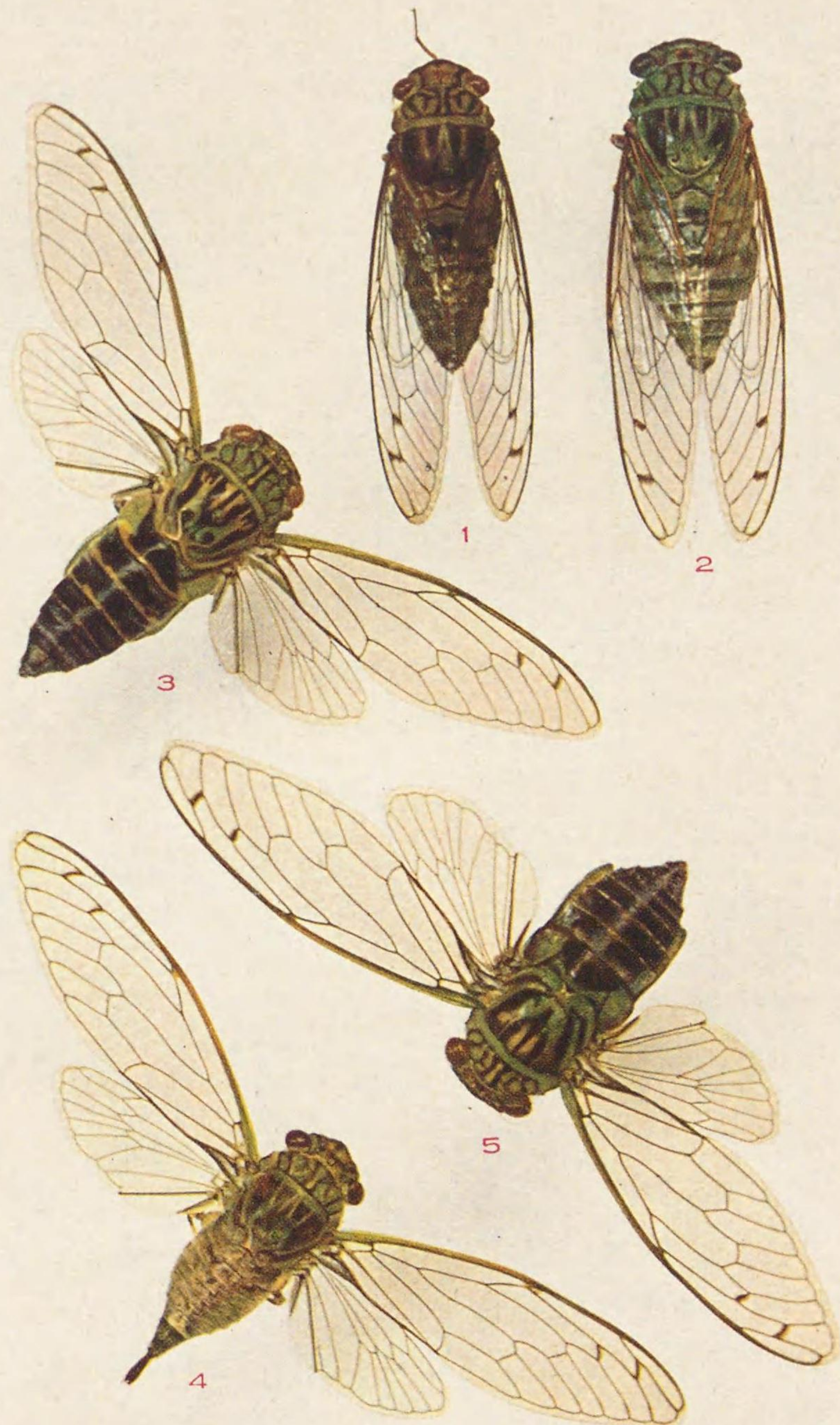




Plate 16 同翅目

〔せみ科〕

- 1 イハサキゼミ (合) *Meimuna iwasakii* Matsumura.

〔分布〕 琉球 (八重山)。

- 2 イシガキゼミ (合) *Meimuna ishigakina* Kato.

〔分布〕 琉球 (八重山)。

- 3 カレイゼミ (合) *Macrosemia kareisana* Matsumura.

〔分布〕 臺灣 (VII-X)。

最初可裡山にて獲られたので此の名がある。主として1000米

突以上の山地に産し、カ——カ、ゝゝと金属性の聲で鳴く。

著者が初めて遠聲を聞いた時には、土人の家で鉦を叩いて居

るのかと思つた。

Plate 17 同翅目

[せみ科]

- 1 ヲガサハラゼミ (合) *Meimuna boninensis* Distant.

[分布] 小笠原島。

- 2 オホシマゼミ (合) *Meimuna oshimensis* Matsumura.

[分布] 奄美大島, 沖縄島 (IX)。

- 3 ホウライゼミ (合) *Macrosemia matsumurai* Kato.

[分布] 臺灣 (高山)。

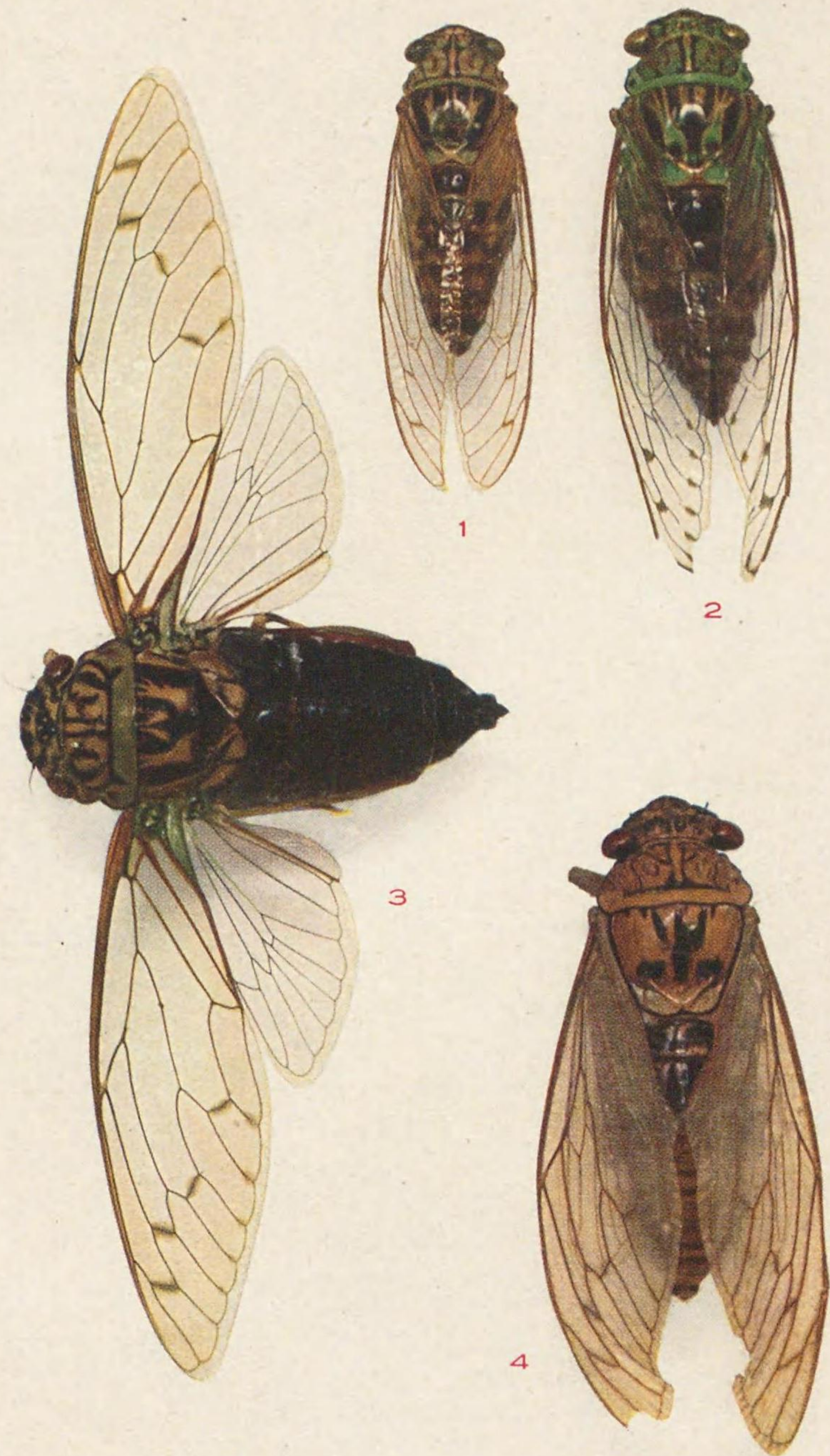
- 4 タカサゴゼミ (合) *Platylomia bivocalis* Matsumura.

[分布] 臺灣 (恒春)。

これは恒春海岸のリントウに棲息し、シャー及びホーの二重音を發すると云ふ。*bivocalis* の名はこれより出でたものである。

PLATE 17

x1



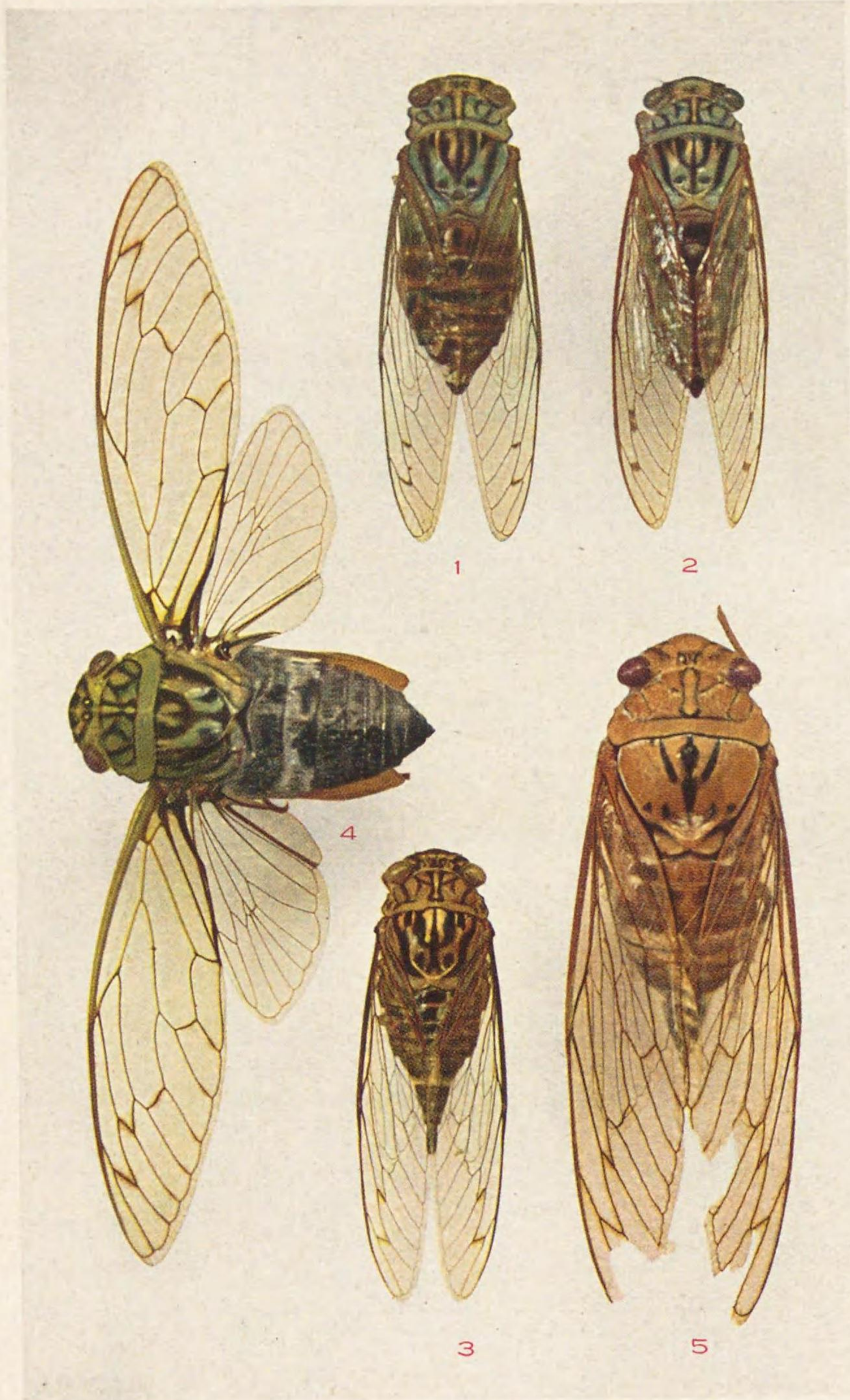


Plate 18 同翅目

〔せみ科〕

- 1 コマゼミ (♂) *Meimuna mongolica* Distant.

〔分布〕 朝鮮, 支那 (VII-IX)。

本種は地方的に幾多の變化があり, 種々の學名を附せられたが, 著者は各地よりの標本を獲て研究の結果, 上記の如くに統一した。和名は朝鮮の古名高麗を取つたものである。

- 2 サカグチゼミ (♂) *Meimuna sakaguchii* Matsumura.

〔分布〕 琉球 (鬼界島, 沖繩島)。

- 3 オホシマツクツク (♀) *Meimuna amami-oshimana*
Kato.

〔分布〕 奄美大島, 屋久島 (VII)。

- 4 タカネゼミ (♂) *Cosmopsaltria montana* Kato.

〔分布〕 臺灣 (高山)。

阿里山, 新高山等に産することに依り上記の名稱を與へた。

- 5 タカサゴゼミ (♀) *Platylomia bivocalis* Matsumura.

〔分布〕 臺灣。

雄は前圖版に説明した。高砂蟬。

Plate 19 同翅目

〔せみ科〕

- 1 ヒグラシ (合) *Tanna japonensis* Distant.

〔分布〕 本州, 四國, 九州, 朝鮮 (VI—IX)。

鳴聲の最も美しい蟬である。近くで聴けばケ、ケ、ケ、ケ、遠聲

カナカナと聞える。

- 2 同上の蟬蛻

- 3 タイワンクマゼミ (合) *Cryptotympana holsti* Dis-

tant.

〔分布〕 臺灣 (VI—VII), 南支那。

雌は Plate 10 を参照。

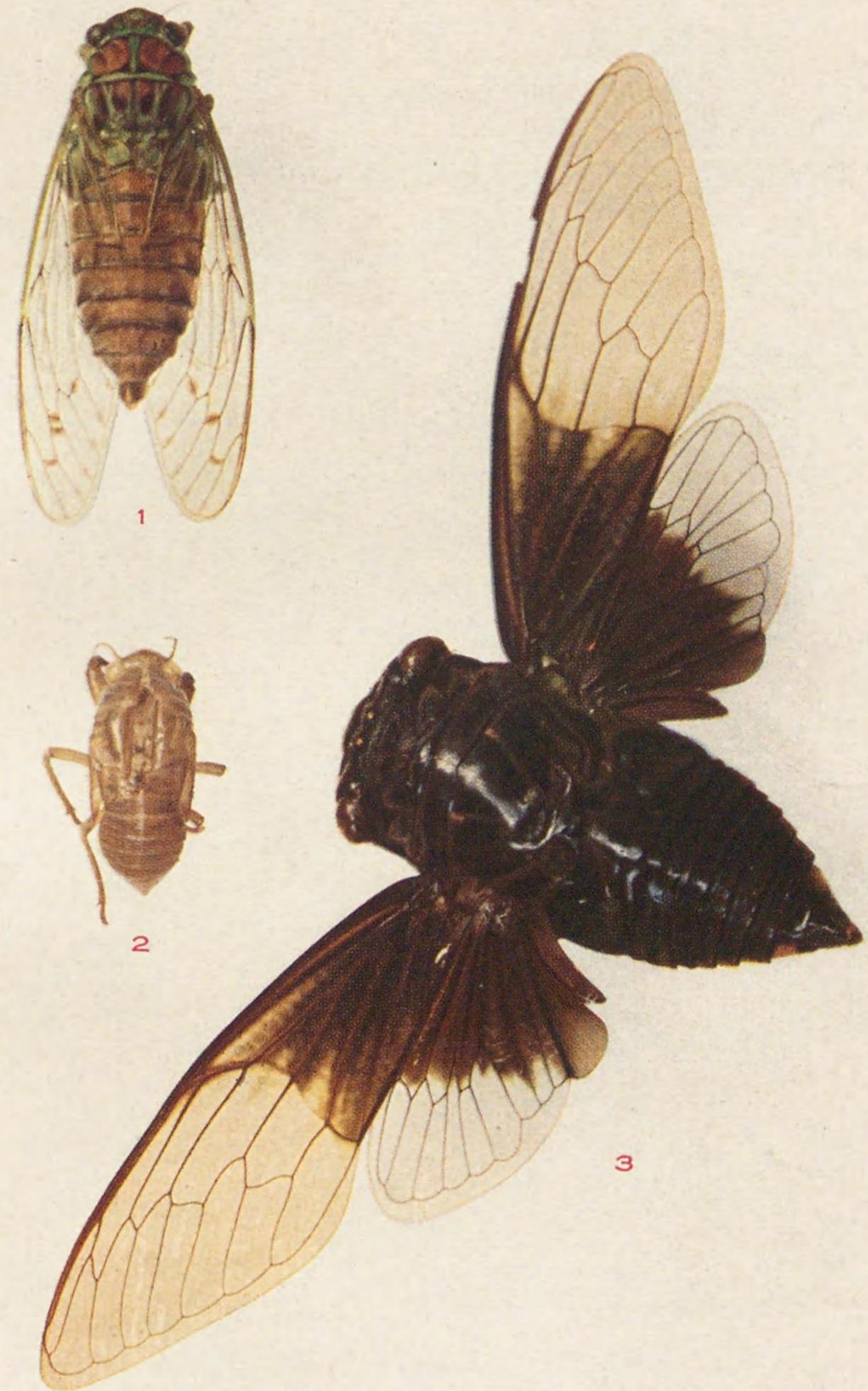




Plate 20 同翅目

〔せみ科〕

- 1 ホリシヤコヒグラシ(合) *Neotanna horishana* Kato.

〔分布〕 臺灣。

埔里(舊名埔里社)附近の山地に産するので上記の名稱を附

した。(Type specimen)

- 2 コヒグラシ(合) *Neotanna viridis* Kato.

〔分布〕 臺灣。

山地に産し、チゝゝゝと鳴く。

- 3 タイピンヒグラシ(合) *Tanna taipinensis* Matsu-

mura.

〔分布〕 臺灣(VII)。

名稱は初めての發見地大坪を附したものである。

Plate 21 同翅目

[せみ科]

- 1 ヒグラシ (含) *Tanna japonensis* Distant.

[分布] 本州, 四國, 九州, 朝鮮 (VI-IX)。

寫眞は淡色のものを示す。

- 2 タロワンコヒグラシ (含) *Neotanna tarowanensis*

Matsumura.

[分布] 臺灣。

本種は蕃地タロワン社で發見せられたので, 上記の名稱が附

せられた。

- 3 コヒグラシの變種 (=イタカコヒグラシ) *Neotanna*

viridis Kato. var. *niitakaensis* Kato.

[分布] 臺灣 (VII)。

高山に産する種類である。(Type specimen)



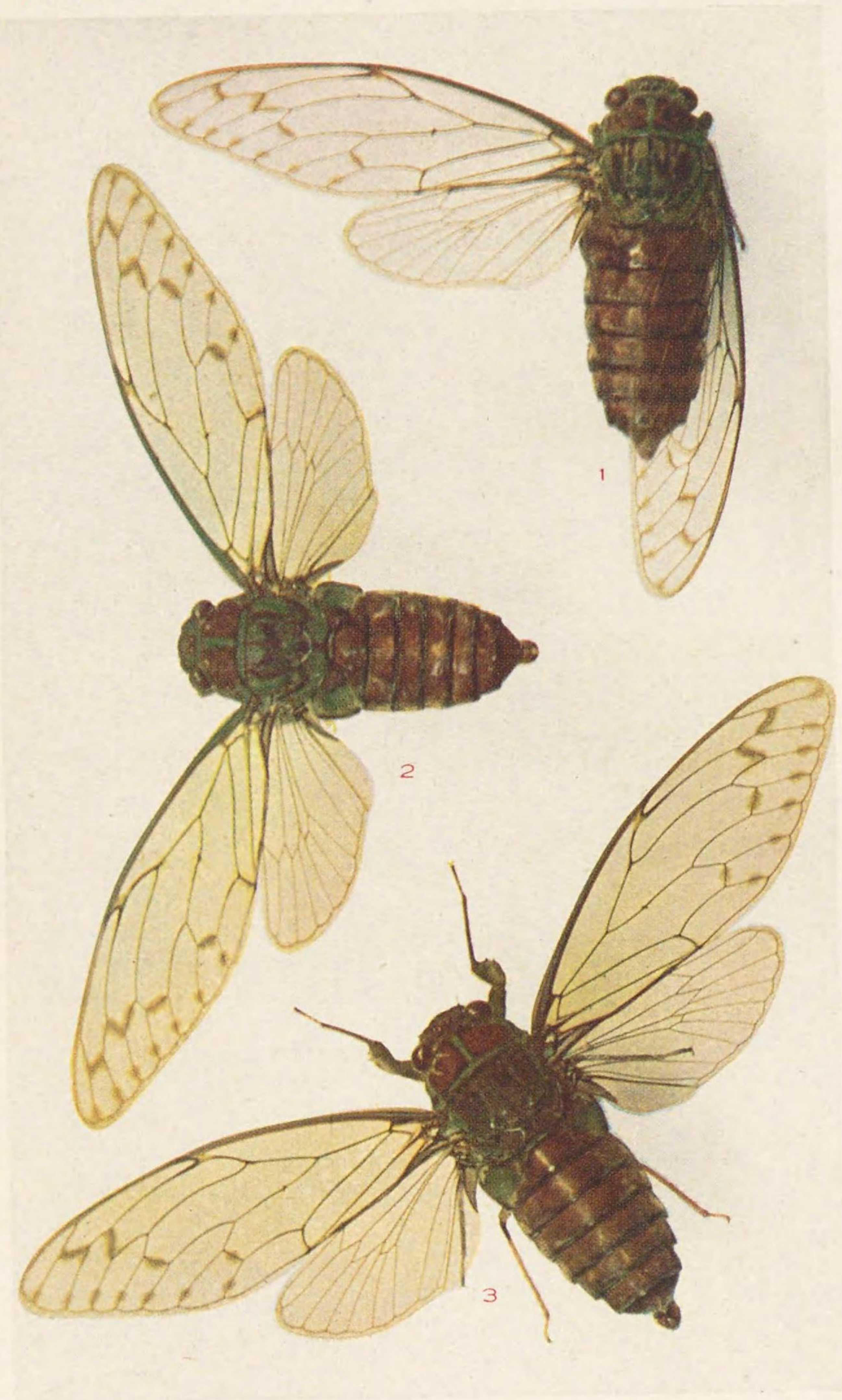


Plate 22 同翅目

〔せみ科〕

- 1 ホリヒグラシ (合) *Tanna horiensis* Kato.

〔分布〕 臺灣 (VIII)。

埔里の山地で発見されたもの。

- 2 ベツコウヒグラシ (合) *Tanna sayurie* Kato.

〔分布〕 臺灣 (VIII)。

これは奮起湖で発見したものであるが、他の地方では獲たこ

とがない。ケ—ケ、い、い、と鳴く。(Type specimen.)

- 3 キバネヒグラシ (合) *Tanna auripennis* Kato.

〔分布〕 臺灣 (V)。

チ、カーチ、カーと鳴く。水社、花蓮港等に産するも稀。

(Type specimen)

Plate 23 同翅目

〔せみ科〕

- 1 タイコウヒグラシ (合) *Tanna taikosana* Kato.

〔分布〕 臺灣 (VII—VIII)。

大坑山で最初発見したので上記の名稱を附した。チ、カーチ

、カーチ、と鳴く。その聲美しい。Type specimen.

- 2 同上 (♀)

- 3 サウザンヒグラシ (合) *Tanna sozanensis* Kato.

〔分布〕 臺灣 (VI—VII)。

これは臺灣北部の山地に産し、著者は草山、竹仔湖、坪林尾

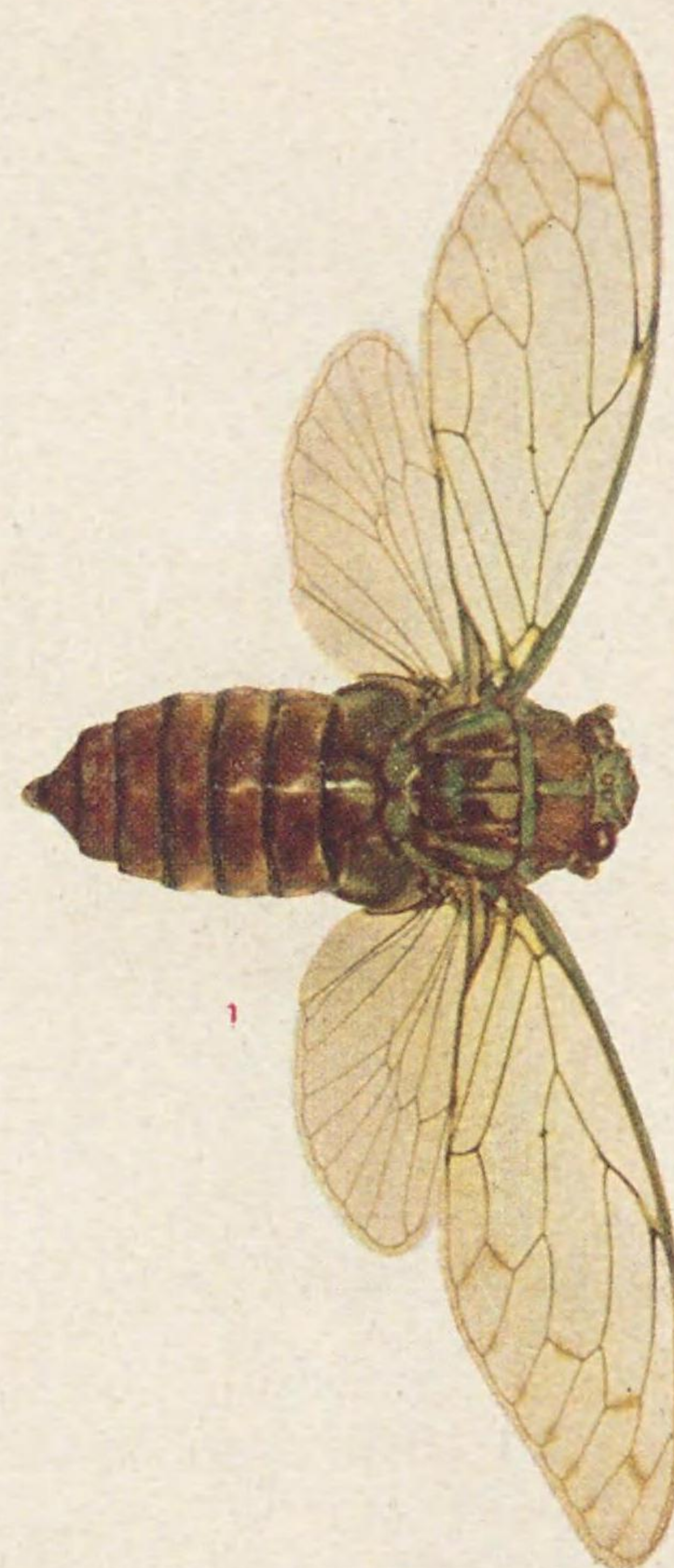
等で獲た。ケ、ケ、ケ、と鳴く。

PLATE 23

× 1



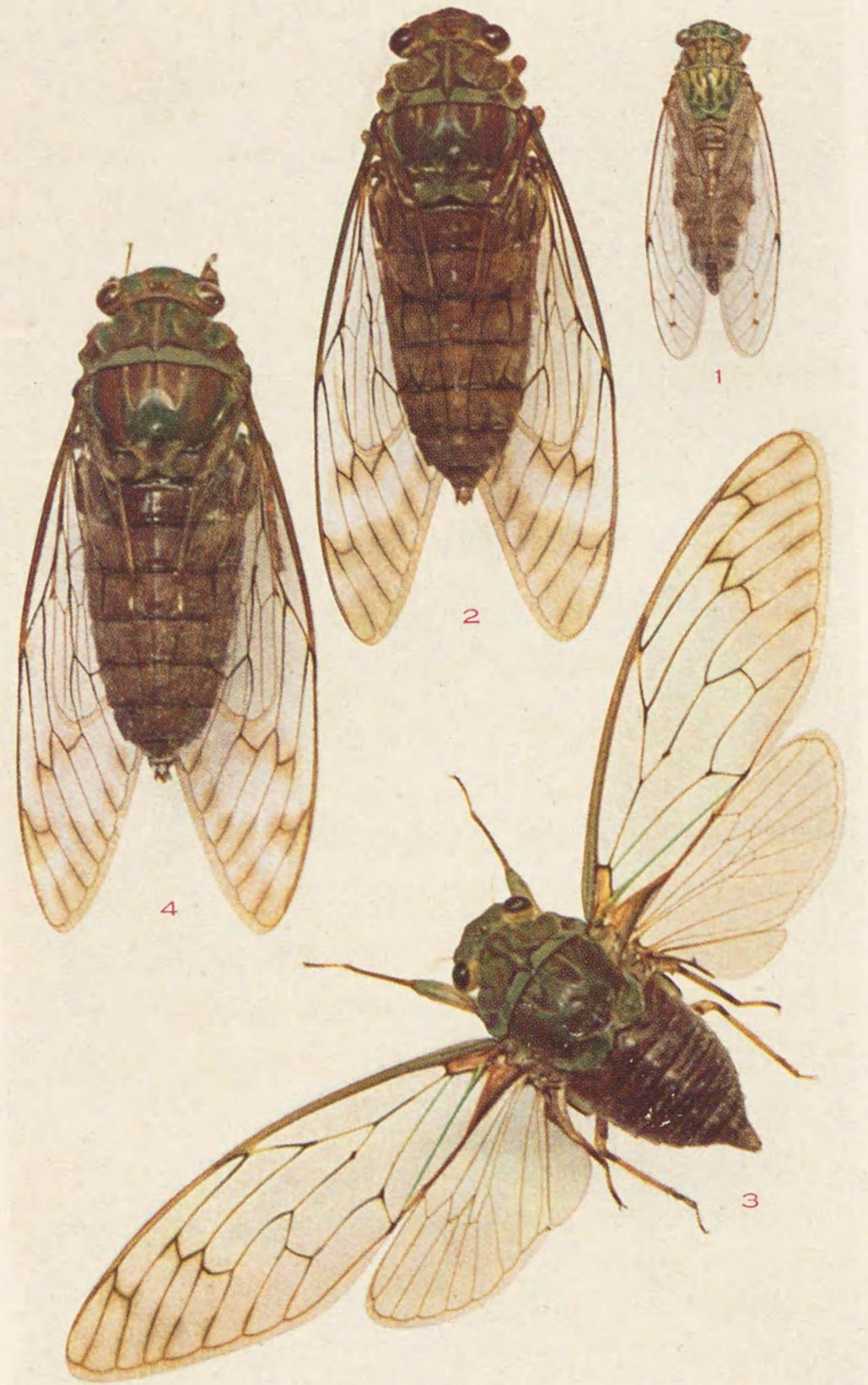
2



1



3



〔せみ科〕

1 イハサキヒメハルゼミ (合) *Euterpnosia iwasaki*
Matsumura.

〔分布〕 琉球 (八重山)。

2 タイワンヒグラシ (合) *Pomponia fusca* Olivier.

〔分布〕 臺灣 (V-X), 印度, 馬來半島, 同群島, 支那。
鳴聲ワンワンワンワン…… シヤシヤシヤシヤシヤヴィー——
シヤシヤシヤシヤシヤヴィー——! 日本産蟬中最も音楽的
である。全島の平地の森林中に最も普通。

3 同上 (♀)

4 同上 (合) 亞種 *Pomponia fusca* Oliv. subsp.
yayeyamana nov.

〔分布〕 八重山。

元來同地産のものは臺灣のものと同種とされてゐるが、寫
眞に見る如く頭部が前方に餘り突出して居ないこと、胸部の
幅が著しく廣い等の相違がある。著者の標本は岩崎氏より贈
られた石垣島産の合一頭であるが、中央氣象臺所藏の標本を
檢し、總て同一の特徴を有するを知り、新亞種として區別す
る。寫眞は Type specimen.

Differs from the typical form as follows:

Head not distinctly produced anteriorly; thorax much broader
than typical form.

Hab. Loochoo I.: Yayeyama.

Type No. 211

Plate 25 同翅目

〔せみ科〕

- 1 ホツボヒグラシ (合) *Taiwanosemia hoppoensis*
Mastumura.

〔分布〕 臺灣 (V-VII)。

平地の叢中に棲息し、早朝及び夕方ツクレーツクレーツクロー
ー或はケレーケレーと鳴く。臺灣人は暗蟬と云ふ。

- 2 同上 (♀)

- 3 ミンミンの變種 (ミカドミンミン) (♀) *Oncotym-
pana maculaticollis* Motsch. var. *mikado* Kato.

〔分布〕 本州 (VII)。

ミンミンに混じて発見されるが、極めて稀で、著者は是迄に
獲たもの♀♂を合して僅かに五頭である。

- 4 キウシウヒグラシ (合) *Pomponia kiushiuensis* Kato.

〔分布〕 九州。

本種は九州より獲たものであるが、産地は明かでない。

(Typespecimen.)

- 5 ホホグロヒメハルゼミ (♀) (新種) *Euterpnosia*
hohoguro sp. nov.

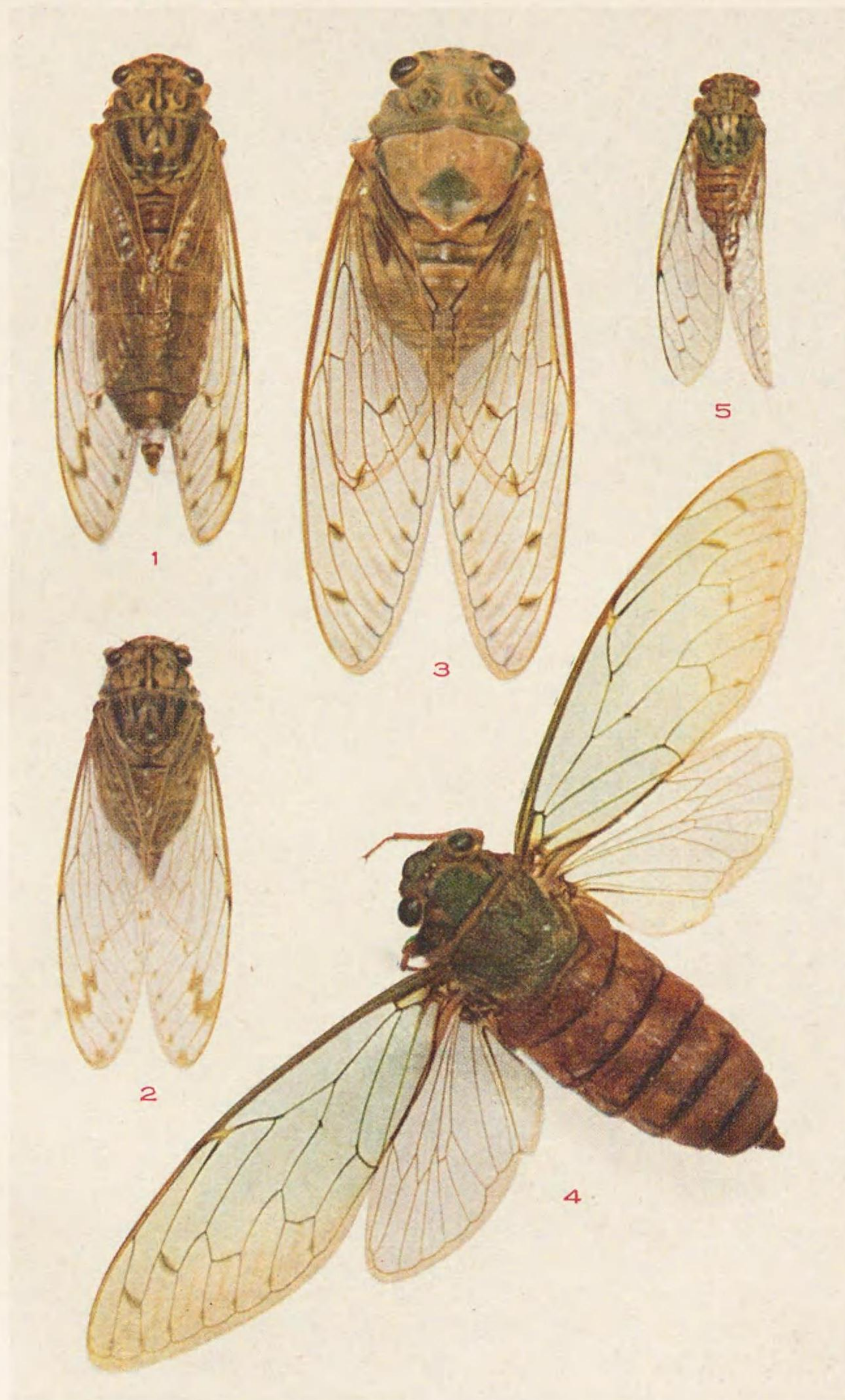
〔分布〕 臺灣 (花蓮港) (VII)。

本種は頬が黒色の點で、他の總てのヒメハルゼミ類と區別す
ることが出来る。標本は雌であるが上記の特徴に依り新種と
して記載する。寫眞は Type specimen.

Body above greenish-ochraceous; head with two small spots
on base of frons, area of ocelli, each side of vertex and two
small spots on supra-antennal plate, black. Pronotum with two
central longitudinal black linear fasciae, united anteriorly and
posteriorly, lateral groove and two spots on posterior lateral
lobe also black. Mesonotum with five linear fasciae, the central
one long and narrow, with a short and inwardly curved one
each side, the lateral one somewhat long, J-shaped, outwardly

PLATE 25

×1



268549

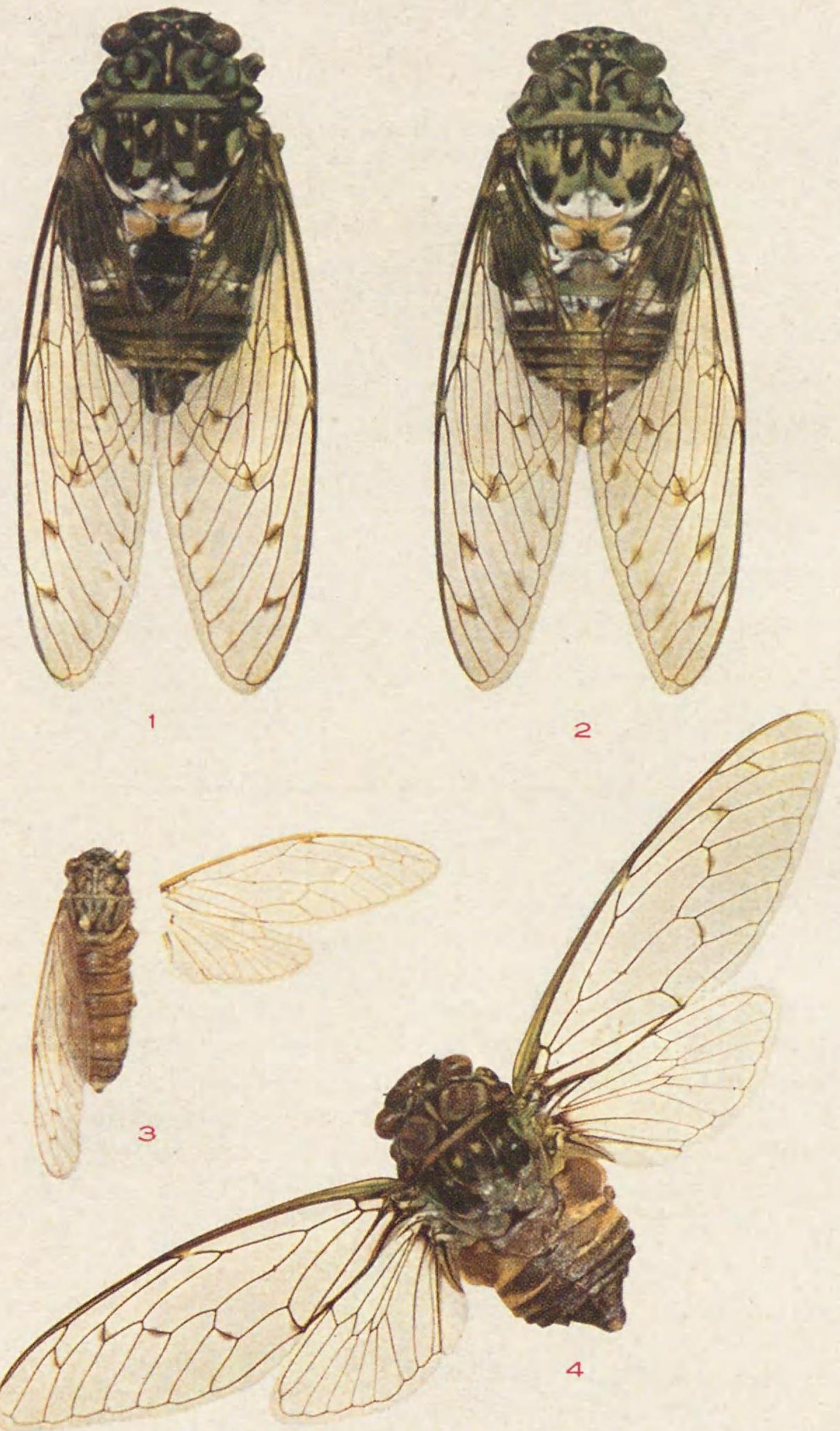


Plate 26 同翅目

〔せみ科〕

- 1 ミンミン (合) *Oncotympana maculaticollis* Motschulsky.
〔分布〕 北海道, 本州, 四國, 九州 (VII—IX)。
關東地方では平地に普通であるが, 一般に山間に多い蟬である。ミンミンと大聲で鳴く。
- 2 同上 (合)
斑紋の簡單なるもの, 兩者混棲して居る。
- 3 ホソヒメハルゼミ (合) *Euterpnosia gina* Kato.
〔分布〕 臺灣。
寫眞は Type specimen.
- 4 テウセンミンミン (合) *Oncotympana coreana* Kato.
〔分布〕 朝鮮, 支那。

(From former page)

curved, and a black spot near apices of each angle of cruciform elevation. Abdomen ochraceous, each segmental margins (narrowly) and ovipositor sheath black.

Tegmina and wings hyaline, veins dull greenish ochraceous and black, first, second and third cross veins almost parallel and vertical, the first and second ones infuscated.

Body beneath and legs dull yellowish-ochraceous, frons concolor, a large spot on each side of frons, gena and clypeus black. Proboscis scarcely reaching base of posterior coxae. Abdomen dull ochraceous, a spot on each pleuron and obscure transverse fascia on each sternite fuscous.

Length including ovipositor 21 mm., tegmen 27 mm., width of tegmen 18.5 mm.

Loc. Formosa : Karenko (VII).

Type No. 212.

Plate 27 同翅目

[せみ科]

- 1 テウセンミンミンの變種 (合) (セグロミンミン)

Oncotympana coreana Kato. var. *nigrodorsalis*

Mori.

[分布] 朝鮮。

背面の黒色の點で基本型と區別する。

- 2 テウセンミンミン (♀) *Oncotympana coreana*

Kato.

[分布] 朝鮮, 支那。

- 3 エゾハルゼミ (♀) *Terpnosia nigricosta* Motschul-

sky.

[分布] 北海道, 本州, 九州 (V-VII)。

- 4 ホソヒメハルゼミ (♀) *Euterpnosia gina* Kato.

[分布] 臺灣。

合は前圖版參照。

- 5 エゾハルゼミ (合) *Terpnosia nigricosta* Motschul-

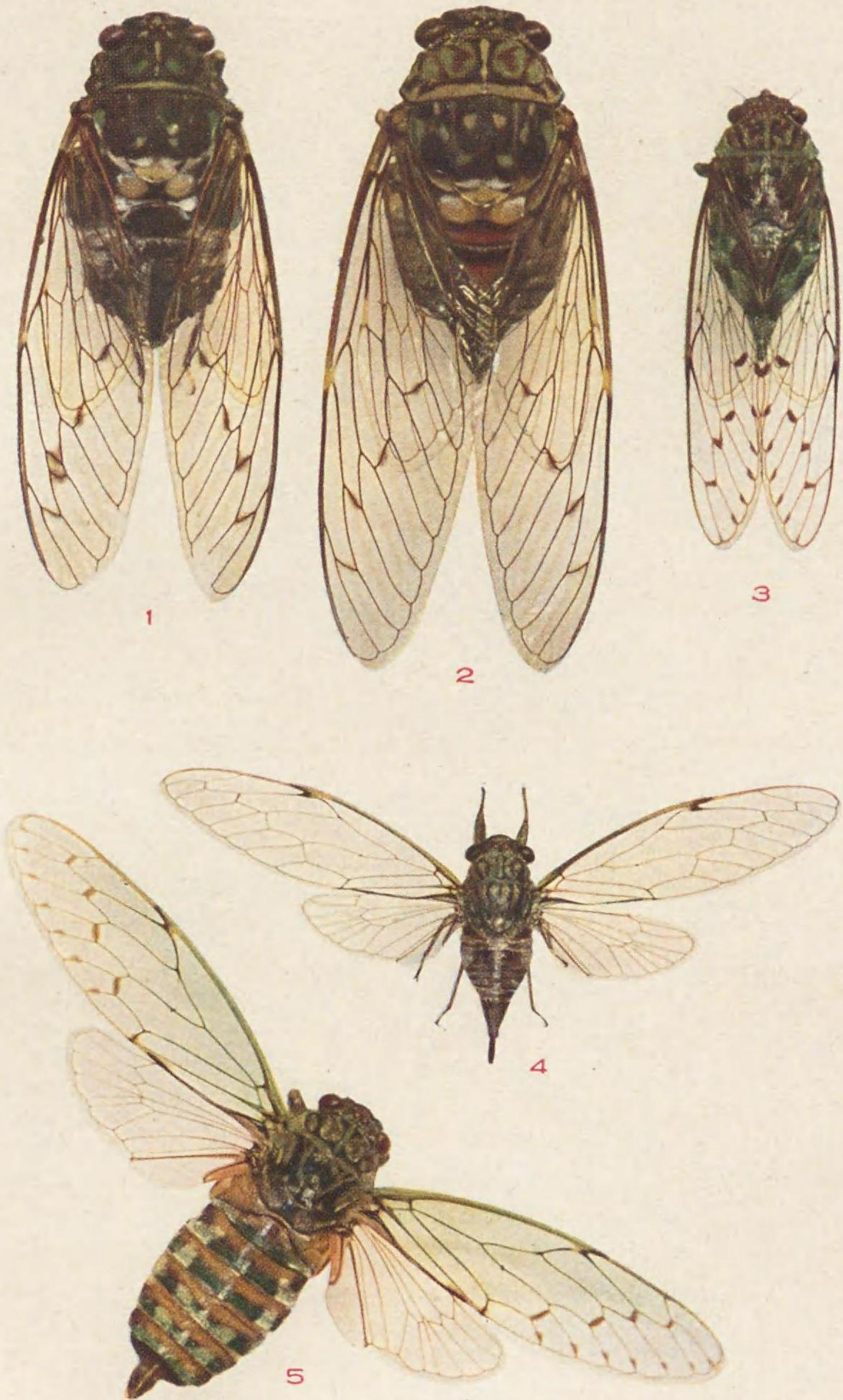
sky.

3 圖參照。ジーオケ、と鳴く。その聲を遠方より聽く

時は蛙聲そのまゝである。東京附近では筑波山に多い。

PLATE 27

x1



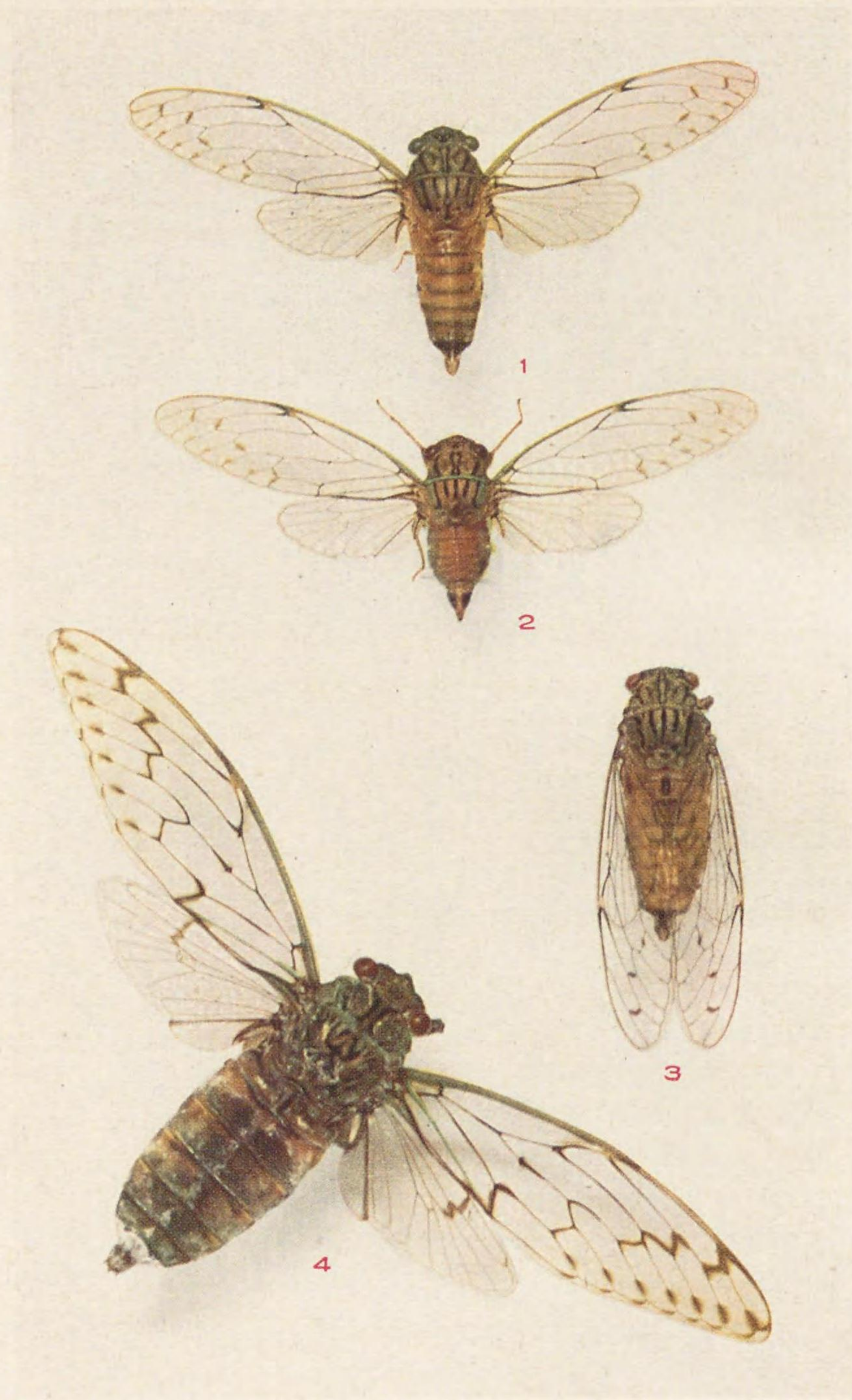


Plate 28 同翅目

〔せみ科〕

- 1 サカキヒメハルゼミ (♂) *Leptosemia sakaii* Matsumura.

〔分布〕 臺灣 (VI-VII)。

山間の林中に多い。ジーユ ジュジュジュジュジュと鳴く。

- 2 同上 (♀)

- 3 テウセンホソヒグラシ (♂) *Leptosemia souyoensis* Doi.

〔分布〕 朝鮮 (VIII)。

寫眞は命名者土居寛暢氏より贈られた Paratype である。

- 4 ワタナベヒグラシ (♂) *Semia watanabei* Matsumura.

〔分布〕 臺灣 (V-VIII)。

この蟬は山地に普通であるが、高樹に棲息するので捕獲困難である。鳴聲ケ——。

Plate 29 同翅目

〔せみ科〕

- 1 ヒメハルゼミ (♂) *Euterpnosia chibensis* Matsumura.

〔分布〕 本州, 九州, 琉球 (VII)。

本種は局部的に非常に狭い区域に産するもので, 生態的に興味深い蟬である。現在新潟 (記録に依る), 奈良, 千葉, 茨城, 岐阜, 福岡, 那覇等から知られ, 茨城縣のものは天然記念物として保護されて居る。鳴聲カラ、ミーンミーン或はジーワジーワと聞える。

- 2 同上 (♀)

- 3 同上變種 (♀) *Euterpnosia chibensis* Mats. var. *daitoensis* Matsumura.

〔分布〕 琉球, 屋久島。

- 4 ワタナベヒグラシ (♀) *Semia watanabei* Matsumura.

〔分布〕 臺灣 (V-VIII)。

♂は前圖版参照。

PLATE 29

×1



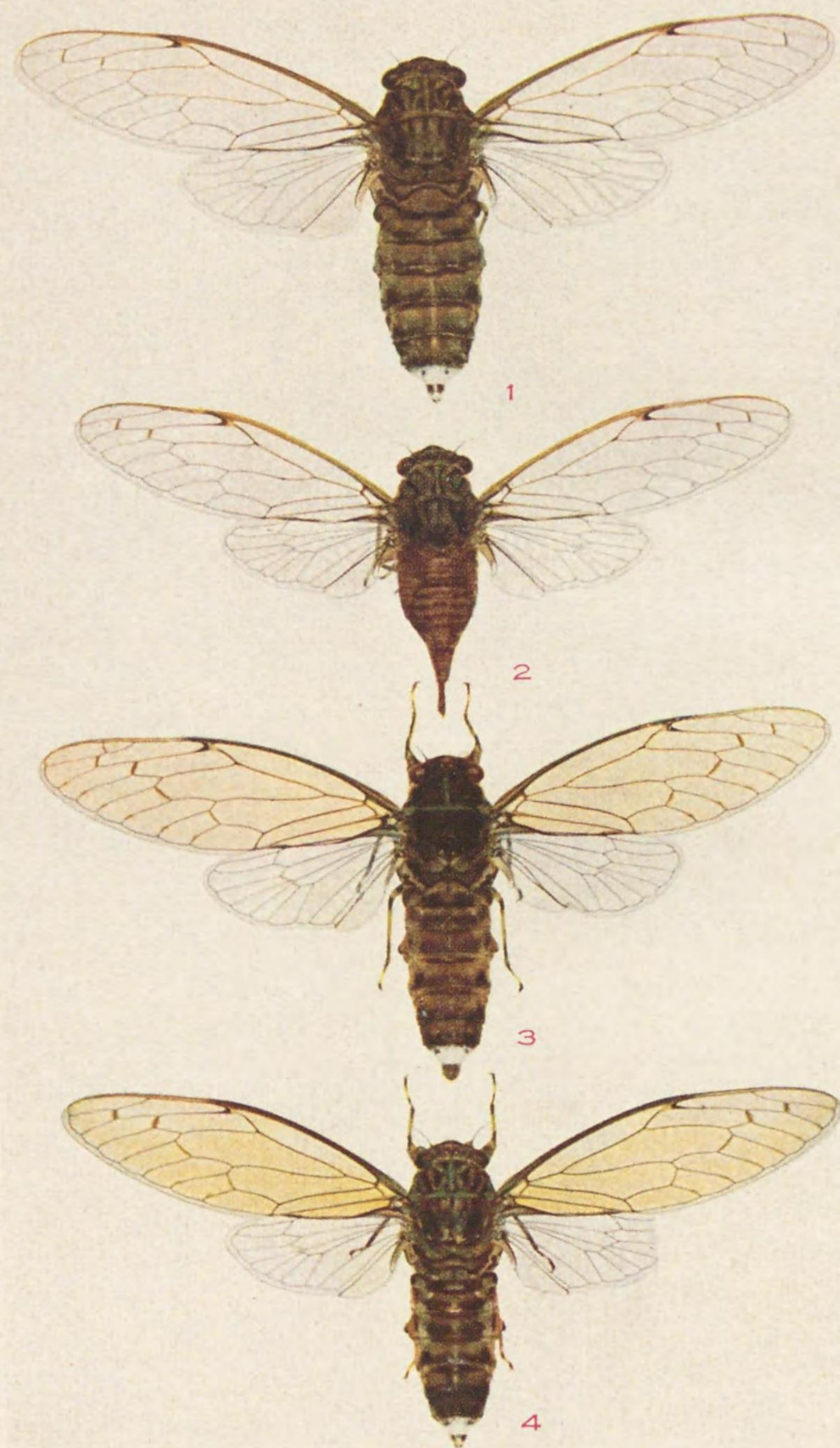


Plate 30 同翅目

[せみ科]

- 1 ホツボヒメハルゼミ (合) *Euterpnosia hoppo* Matsumura.

[分布] 臺灣 (V)。

鳴聲 ジュジュジュジュジュ ! " " " ! ミーンミーン
ミーン ! (稍々内地のハルゼミに似て居る)。

- 2 同上 (♀)

- 3 タイヘイヒメハルゼミ (合) *Euterpnosia varicolor* Kato.

[分布] 臺灣 (VII)。

鳴聲 ミーンミーンミーン ! これは太平山で発見したもので
その他の地方では鳴聲すら聞いたことがない。

- 4 同上 (合)

斑紋の相違を示す。

Plate 31 同翅目

[せみ科]

- 1 スキシヤヒメハルゼミ (合) *Euterpnosia suishana* Kato.
〔分布〕 臺灣 (V)。
日月潭畔の水社で採集したので上記の名称を與へた。鳴聲カラゝゝゝゝ！ 發音中時々ケゝゝゝゝの音を出す。
- 2 クスクスヒメハルゼミ (合) *Euterpnosia olivacea* Kato.
〔分布〕 臺灣 (恒春) (V)。
クスクスとは恒春の蕃地名である。
- 3 コウシュンヒメハルゼミ (合) *Euterpnosia koshuensis* Kato.
〔分布〕 臺灣 (恒春) (V)。
- 4 アヲツラヒメハルゼミ (合) *Euterpnosia viridifrons* Matsumura.
〔分布〕 臺灣 (V—VIII)。
臺灣山地に廣く分布して居る。鳴聲ジ——ジンジンジンジンゝゝゝ！
額が青綠色なので上記の名称が附せられた。
- 5 同上 (♀)
- 6 クスクスヒメハルゼミ (♀) *Euterpnosia olivacea* Kato.
〔分布〕 臺灣 (恒春) (V)。
- 7 コウトウヒメハルゼミ (合) *Euterpnosia kotoshoensis* Kato.
〔分布〕 臺灣 (紅頭嶼) (V)。
- 8 同上 (♀)

PLATE 31

×1



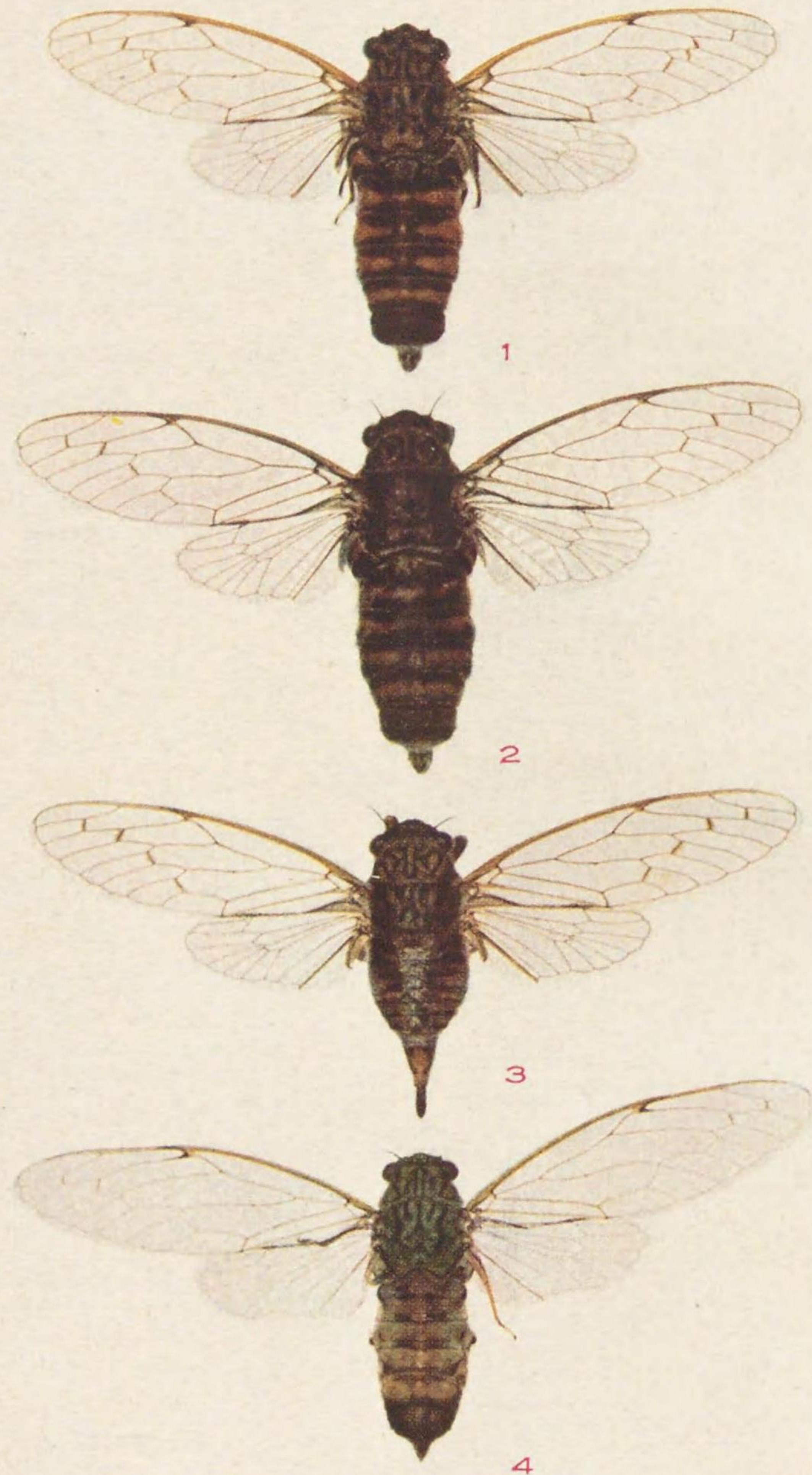


Plate 32 同翅目

〔せみ科〕

- 1 ハルゼミ (♂) *Terpnosia vacua* Olivier.

〔分布〕 本州, 四國, 九州 (V-VI)。

松樹に棲息し, カラゝゝ、ミーンミーンと鳴く。

- 2 同上 (♂) 黒色型 *Terpnosia vacua* Olivier form.

nigra Kato.

これは雄にのみ見られるものであつて, 基本型よりも遙かに

個體數が多い。

- 3 ハルゼミ (♀)

- 4 アリサンヒメハルゼミ (♂) *Euterpnosia arisana*

Kato.

〔分布〕 臺灣。

寫眞は Type specimen.

Plate 33 同翅目

[せみ科]

- 1 クサゼミ (♂) *Mogannia hebes* Walker.
 [分布] 臺灣, 支那 (IV—VIII).
 草中に棲む, 鳴聲ジ——, 此の屬は總て葉の表面に止り, 枝等には絶対に靜止することがない。
- 2 同上變種 (♂) *Mogannia hebes* Walk. var. *d* Kato.
 [分布] 臺灣。
- 3 同上變種 (♀) *Mogannia hebes* Walk. var. *dorsivittata* Matsumura.
 [分布] 臺灣。
- 4 キイロクサゼミ (♀) *Mogannia basalis* Matsumura.
 [分布] 臺灣。
- 5 イハサキクサゼミ (♂) *Mogannia iwasakii* Matsumura.
 [分布] 琉球 (八重山)。
- 6 ヒメクサゼミ (♂) *Mogannia minuta* Matsumura.
 [分布] 琉球 (沖繩島)。
- 7 クサゼミの變種 (♀) (カトウクサゼミ) *Mogannia hebes* Walk. var. *katonis* Matsumura.
 [分布] 臺灣。
 名稱は松村博士が, 著者の姓を記念として附せられたものである。
- 8 同上 (♀) (リトウクサゼミ) *Mogannia hebes* Walk. var. *ritozana* Matsumura.
 [分布] 臺灣。
 變種名は最初の發見地李棟山を附したものである。
- 9 カノクサゼミ (♂) *Mogannia kanoi* Kato.
 [分布] 臺灣 (VI)。
- 10 クサゼミの變種 *Mogannia hebes* Walk. var. *flavescens* Kato.
 [分布] 臺灣 (恒春)。
- 11 同上 (♀) *Mogannia hebes* Walk. var. *a* Kato.
 [分布] 臺灣。
- 12 クロイハゼミ (♂) *Baeturia kuroiwaie* Matsumura.
 [分布] 琉球 (沖繩島)。

PLATE 33

× 1

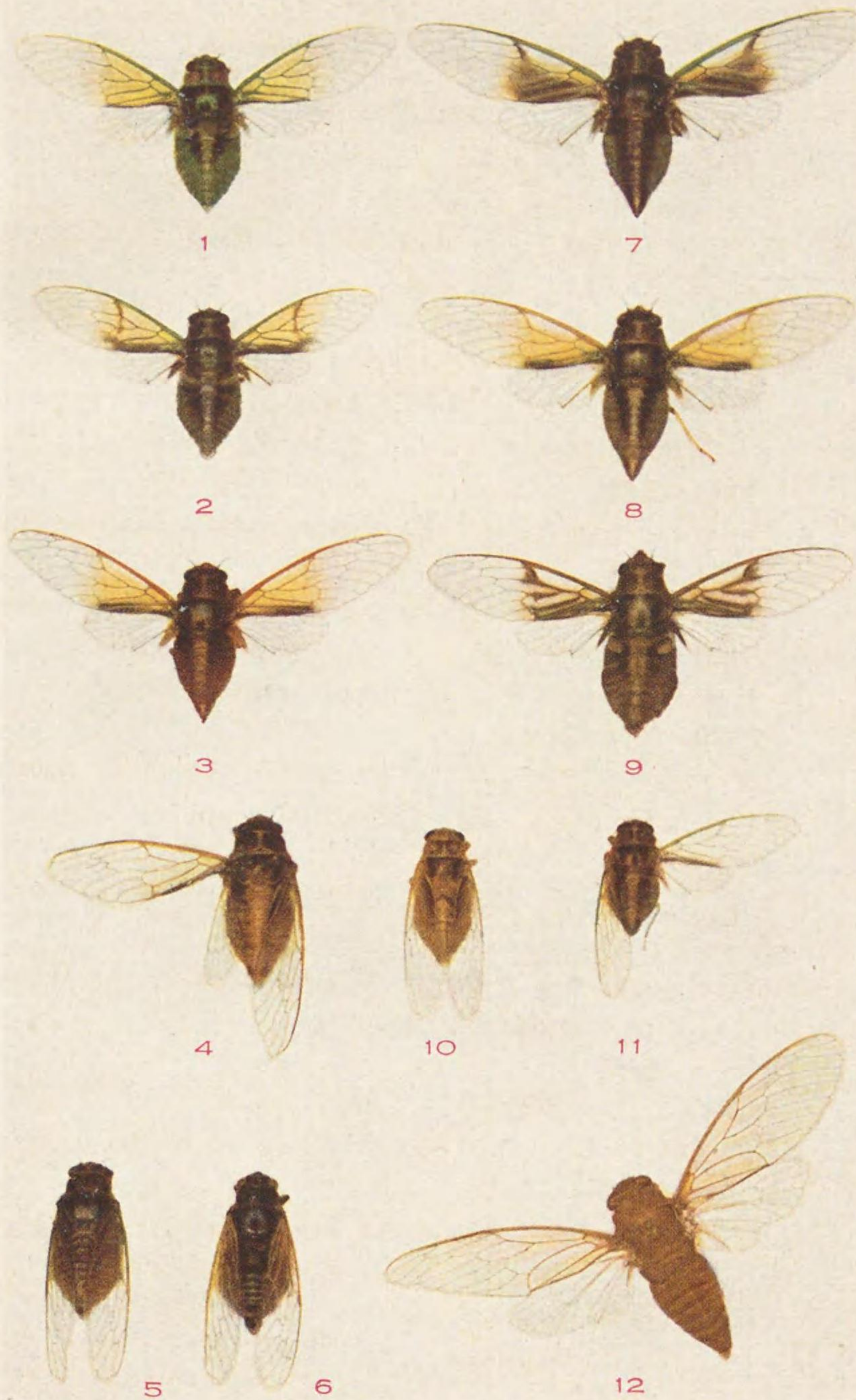




Plate 34 同翅目

〔せみ科〕

本圖版に示すものは總てネグロクサゼミ (合) *Mogannia formosana* Matsumura である。1 及び 2 は基本型 4 及び 5 は著者が亞種ウライクサゼミ subsp. *uraina* Kato としたものである。左列は總て腹面一様に黒色であるが、右列は黄色い。後者は var. *pallipes* Matsumura (キアシクサゼミ) と稱するもので、6, 7 はその基本型 8, 9 はオビクサゼミ *Mogannia fasciata* Kato として著者が發表したものであるが、翅の斑紋は極めて多様でこれに依つて區別することは不可能なので、腹面の黒色なるを基本型とし (左列), 黄色なるを var. *pallipes* (右列), 著しく赤味を帯び、翅の前縁が赤血色を帯ぶるものを var. *rubricosta* (次圖版) に統一した。

〔分布〕 臺灣 (V-VII)。

鳴聲ジ—, ジ—, ジ—, ジ——!

Plate 35 同翅目

[せみ科]

- 1 ネグロクサゼミの變種 (キアシクサゼミ) (♂) *Mogannia formosana* Mats. var. *pallipes* Matsumura.
 [分布] 臺灣 (V-VII).
- 2 ベツコウクサゼミ (♂) *Mogannia kashotoensis* Kato.
 [分布] 臺灣 (火燒島).
 (Type specimen.)
- 3 アヲモンクサゼミ (♀) *Mogannia delta* Kato.
 [分布] 臺灣 (火燒島).
 (Type specimen.)
- 4 ヒメルリクサゼミ (♂) *Mogannia bella* Kato.
 [分布] 臺灣.
- 5 ネグロクサゼミの變種 (マヘアカクサゼミ) (♀) *Mogannia formosana* Mats. var. *rubricosta* Matsumura.
 [分布] 臺灣.
- 6 同上 (マヘアカクサゼミ) (♂)
- 7 ベツコウクサゼミの變種 (♂) *Mogannia kashotoensis* Kato var. *flavoguttata* Kato
 [分布] 臺灣 (火燒島).
- 8 ルリクサゼミ (♂) *Mogannia cyanea* Walker.
 [分布] 臺灣 (V-VIII), 南支那, 印度, ビルマ, アツサム
 鳴聲ジ— (弱い音).
- 9 ハグロルリクサゼミ (♂) *Mogannia nigocyanea* Matsumura.
 [分布] 臺灣 (VI-VII).
 鳴聲同上.
- 10 ルリクサゼミの變種 (♀) *Mogannia cyanea* Walk. var. *flavofascia* Kato.
 [分布] 臺灣, 印度.

PLATE 35

×1



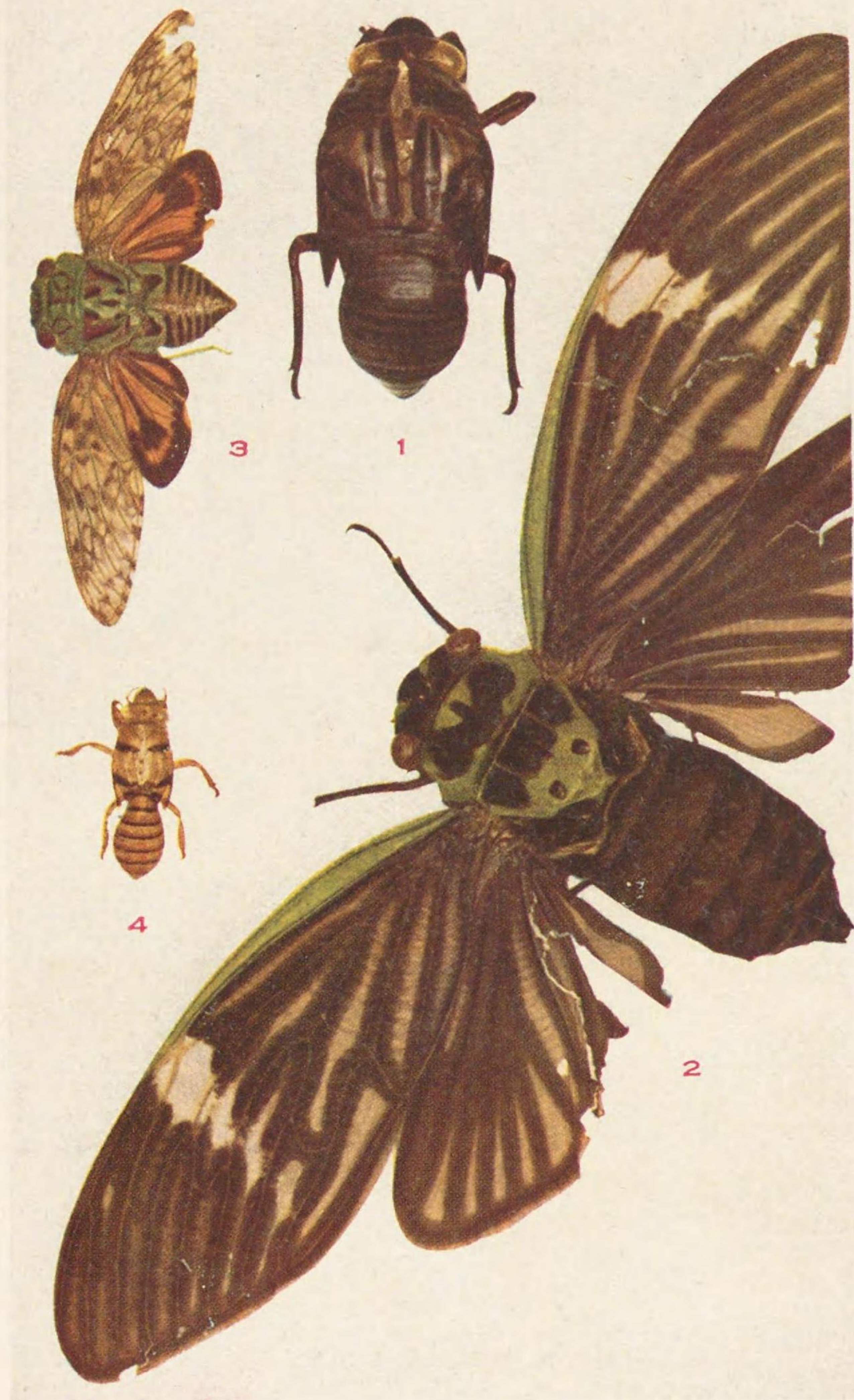


Plate 36 同翅目

〔せみ科〕

- 1 タイワンアブラゼミの蟬蛻
- 2 タイワンアブラゼミの異常型 (含) *Formotosena seebohmi* Distant ab. *interrupta* Schumacher.

〔分布〕 臺灣。

- 3 コシアキニイニイ (含) *Hamza bouruensis* Distant
var. *uchiyamae* Matsumura.

〔分布〕 南洋パラオ島 (X)。

原種は後翅の大部分が暗褐色を帯びて居る。背瓣が大きく割られて孔を作つて居るので上記の和名を與へた。

- 4 ハグロゼミの蟬蛻

Plate 37 同翅目

〔せみ科〕

- 1 ハグロゼミ (♀) *Huechys sanguinea* De Geer var. *philaemata* Fabricius.

〔分布〕 臺灣 (V—IX), 支那, ビルマ。

鳴聲ジ—— (弱い音), 體にカンタリヂンを含み有毒である。常にカンコノキ類, サルスベリ, バンジロウ等に群棲し, 學動甚だ不活潑である。支那では藥用に供する。

- 2 アシアカハグロゼミ (♂) *Scieroptera formosana* Schmidt.

〔分布〕 臺灣 (IV—VIII)。

鳴聲極めて微弱で, 風に吹かるゝ木の葉の音の如く注意しなければ聴き取り難い。少々フル………に似た音である。ホウライムラサキ, オホバギ等に棲む。

- 3 同上蟬蛻

- 4 2に同じ, 翅を展開したもの。

- 5 アシアカハグロゼミの異常型 (♀) *Scieroptera formosana* Schmidt ab. *albifascia* Kato.

〔分布〕 臺灣。

- 6 同上 (♀) *Scieroptera formosana* Schmidt ab. *trigutta* Kato.

〔分布〕 臺灣。

Type specimen.

- 7 タイワンアブラゼミ (♀) *Formotosena seebohmi* Distant.

〔分布〕 臺灣 (V—VI)。

山間に産するも妙い, 鳴聲ミーンミーンミーンミーン。ミンミンの聲に似て悠揚である。

PLATE 37

×1





Plate 38 同翅目
〔せみ科〕

- 1 エゾチツチゼミ (合) *Melampsalta yezoensis* Matsumura.
〔分布〕 北海道 (VIII)。
- 2 カラフトチツチゼミ (合) *Melampsalta sachalinensis* Matsumura.
〔分布〕 樺太, 北海道, 本州 (高山), 朝鮮 (VII—VIII)。
寫眞は朝鮮産のもの。
- 3 テウセンチツチゼミ (合) *Melampsalta isshikii* Kato.
〔分布〕 朝鮮, 滿洲 (VI—VII)。
(Type specimen.)
- 4 ミドリチツチゼミ (合) *Melampsalta rosacea* Distant.
〔分布〕 南洋トラツク島, ニューカレドニア。
- 5 テウセンチツチゼミの變種 (合) *Melampsalta isshikii* Kato. var. *flavicosta* Kato.
〔分布〕 朝鮮, 滿洲 (VI—VII)。
- 6 クサチツチゼミ (合) *Melampsalta pellosoma* Uhler.
〔分布〕 朝鮮 (V—VI), 滿洲, 支那, ウスリー, ハバロフスク, 北樺太 (?)
- 7 ヲカモトチツチゼミ (合) *Leptopsalta admirabilis* Kato.
〔分布〕 朝鮮, 滿洲。
- 8 同上變種 (合) *Leptopsalta admirabilis* Kato. var. *kishidai* Kato.
〔分布〕 朝鮮。
寫眞は Type specimen.
- 9 チツチゼミ (合) *Leptopsalta radiator* Uhler.
〔分布〕 本州, 四國, 九州 (VII—XI)。
主として赤松山に多い。チツチツチツと連続的に鳴く。
- 10 ボナベゼミ (♀) *Arcystasia goddefroyi* Distant.
〔分布〕 南洋ボナベ島。

Plate 39 同翅目

〔つのぜみ科〕

- 1 ニトベツノゼミ (♀) *Centrotus nitobei* Matsumura.

〔分布〕 本州 (山地) (VII)。

- 2 同 上 (♂)

- 3 ミミナガツノゼミ (♀) *Formocentrus typicus* Kato.

〔分布〕 臺灣 (V—VI)。

臺灣の高山に産するも稀である。

- 4 セダカツノゼミ (♀) *Pantaleon dorsalis* Matsumura.

〔分布〕 臺灣 (IV—VII), 南支那。

各地に産するも少い種類である。山地の桑で発見される。

- 5 トゲナガツノゼミ (♀) *Leptocentrus orientalis* Schumacher.

〔分布〕 臺灣。

- 6 タカネツノゼミ (♀) *Leptocentrus formosanus* Kato.

〔分布〕 臺灣 (V—VII)。

高山に産するも稀。寫眞は Type specimen.



1



4



2



5



3



6



1



2



3



4



5



6



7

Plate 40 同翅目

〔つのぜみ科〕

- 1 ツノゼミ (♀) *Orthobelus flavipes* Uhler.
〔分布〕 北海道, 本州, 四國, 九州 (V—VIII)。
ニレ, フヂ其の他潤葉樹に寄生する。
- 2 カネジヤクツノゼミ (♂) *Anchon formosanum* Kato.
〔分布〕 臺灣 (V)。
寫眞は Type specimen. 著者は恒春地方で採集した。
- 3 シカツノゼミ (♀) *Elaphiceps cervus* Buckton.
〔分布〕 臺灣 (V), 支那。
恒春に産するも極めて稀。
- 4 トビイロツノゼミ (♀) *Machaerotypus sibiricus* Lethierry.
〔分布〕 北海道, 本州, 四國, 九州 (VIII—翌VI), シベリ,
ア, ウスリー。
夏の終りより秋に掛けて, アザミ, 栗等に普通である。雑草
中に越冬して翌春産卵する。
- 5 タイワントビイロツノゼミ (♀) *Machaerotypus angulatus* Funkhouser.
〔分布〕 臺灣 (III—V), 南支那。
- 6 アリサントビイロツノゼミ (♂) *Machaerotypus arisana* Kato.
〔分布〕 臺灣 (VI—VII)。
- 7 ツノナガトビイロツノゼミ (♀) *Imporcitor laticornis* Kato.
〔分布〕 臺灣。
(Type specimen)

Plate 41 同翅目

〔つのぜみ科〕

- 1 ユミガタツノゼミ (合) *Indicopleustes fuscomaculatus* Kato.

〔分布〕 臺灣 (X)。

極めて稀で、著者は僅かに一頭を有するに過ぎない。(Type specimen)

- 2 ケナガカネジャクツノゼミ (♀) *Anchon pilosum* Walker.

〔分布〕 臺灣 (VI-X), トンキン, 安南, 印度, セイロン。

- 3 イカリツノゼミ (♀) *Leptobelus sauteri* Schumacher.

〔分布〕 臺灣 (V-VII)。

山地のサルトリイバラ, スモ、等に棲むも稀。

- 4 同上背面圖

- 5 ベツコウツノゼミ (♀) *Telingana formosana* Matsumura.

〔分布〕 臺灣 (V-VII)。

タイワンホトトギス, サルトリイバラ等に発見される。

PLATE 41

× 4



1



2



3



5



4



[つのぜみ科]

- 1 コブツノゼミ (♀) *Eupantaleon bufo* Kato.
[分布] 臺灣 (VI-VII).
(Type specimen)
- 2 ツノホソコツノゼミ (♀) *Tricentrus gracilicornis* Kato.
[分布] 臺灣 (III-V).
- 3 モンコツノゼミ (♀) *Tricentrus koshunensis* Matsumura.
[分布] 臺灣 (III-VI).
- 4 タイワンコツノゼミ (♂) *Tricentrus basalis* Walker.
[分布] 臺灣 (IX), 支那, 香港, シンガポール, ジャバア。
クズに寄生する。
- 5 同上 (♀)
- 6 コウトウコツノゼミ (♀) *Tricentrus kotoinsulanus* Kato.
[分布] 臺灣 (紅頭嶼) (IV-VII).
- 7 ホソコツノゼミ (♂) *Tricentrus gracilis* Kato.
[分布] 臺灣 (VII).
(Type specimen)
- 8 タイホクコツノゼミ (♂) *Tricentrus albipennis* Kato.
[分布] 臺灣 (V).
(Type specimen)
- 9 カンココツノゼミ (♂) *Tricentrus glochidionae* Kato.
[分布] 臺灣 (IV).
タカサゴカンコノキに寄生するので上記の種名を與へた。
(Type specimen)
- 10 同上 (♀)
(Allotype)

〔つのぜみ科〕

- 1 オビコツノゼミ (♀) *Tricentrus fasciatus* Kato.
〔分布〕 臺灣 (X)。
(Type specimen)
- 2 ヘリグロコツノゼミ (♀) *Tricentrus fuscolimbatus* Kato.
〔分布〕 臺灣 (VI)。
(Type specimen)
- 3 ムシヤコツノゼミ (♀) *Tricentrus mushaensis* Kato.
〔分布〕 臺灣 (V)。
霧社で獲たので上記の種名を與へた。(Type specimen)
- 4 タカヲコツノゼミ (♀) *Tricentrus takaoensis* Kato.
〔分布〕 臺灣 (IV)。
産地高雄を種名に冠したもの。(Type specimen)
- 5 マルツノゼミモドキ (♂) *Tricentrus biformis* Kato.
〔分布〕 臺灣 (V)。
寫眞は短角型を示す。
- 6 キバネコツノゼミ (♀) *Tricentrus naifunpoensis* Kato.
〔分布〕 臺灣 (VIII)。
種名は採集地内茅埔を附したものである。
- 7 マルツノゼミモドキ (♂) ^{ないふん埔} *Tricentrus biformis* Kato.
〔分布〕 臺灣 (V)。
寫眞は長角型である。
- 8 テウセントビイロツノゼミ (♂) *Machaerotypus coreanus* Kato.
〔分布〕 朝鮮 (V)。





1



4



2



5



3



6

Plate 44 同翅目

〔つのぜみ科〕

- 1 ヒメタイワンコツノゼミ (♂) *Tricentrus akonis*
Matsumura.

〔分布〕 臺灣 (V—VIII)。

雄は全く角状突起を缺き, *Gargara* 屬に類するも, 雌はそれを具へて居る。

- 2 同 上 (♀)

- 3 同 上 (♀)

此の寫眞は一層角の長きものを示す。

- 4 ヒメコツノゼミ (♀) *Tricentrus minuticornis* Kato.

〔分布〕 臺灣 (V)。

(Type specimen)

- 5 モジツノゼミ (♀) *Tricentrus mojiensis* Matsumura.

〔分布〕 北海道, 本州, 九州, 朝鮮, 臺灣, 滿洲 (V—VII)。

- 6 ミミナガコツノゼミ (♀) *Tricentrus xiphistes*

Kato.

〔分布〕 臺灣 (紅頭嶼) (IV)。

Plate 45 同翅目

〔つのぜみ科〕

- 1 ボタンコツノゼミ (♀) *Tricentrus gargaraformis*
Kato.
〔分布〕 臺灣 (IV-V)。
恒春牡丹社で獲た爲上記の和名を附した。(Type specimen)
- 2 タイピンコツノゼミ (♀) *Tricentrus taipinensis*
Kato.
〔分布〕 臺灣 (VI-VIII)。
新竹州大坪で採集したもの。(Type specimen)
- 3 クヤニヤコツノゼミ (♀) *Tricentrus kuyanianus*
Kato.
〔分布〕 臺灣 (V-VII)。
クヤニヤと云ふのは蕃社の名である。
- 4 スキバコツノゼミ (♀) *Tricentrus hyalinipennis*
Kato.
〔分布〕 臺灣 (V-X)。
山地に産する。
- 5 同上正面圖
- 6 モジツノゼミ (♀) *Tricentrus mojiensis* Matsumura.
〔分布〕 北海道, 本州, 九州, 朝鮮, 臺灣, 滿洲 (V-VII)。
- 7 ヲカモトコツノゼミ (♂) *Tricentrus okamotoi* Kato
〔分布〕 朝鮮 (VI)。
種名は寄贈された岡本半次郎博士を記念したもの。
(Type specimen)
- 8 ツマダコツノゼミ (♂) *Tricentrus fuscoapicalis*
Kato.
〔分布〕 臺灣 (V)。(Type specimen)

PLATE 45

× 4





1



3



4



5



6



2

Plate 46 同翅目

〔つのぜみ科〕

1 オビマルツノゼミ (♀) *Gargara fasciata* Kato.

〔分布〕 本州, 満洲 (V—VII)。

2 同 上 (♂)

3 マルツノゼミ (♀) *Gargara genistae* Fabricius.

3

〔分布〕 北海道, 本州, 九州, 小笠原, 琉球 (VII—VIII)。

シベリア, ヨーロッパ, 北アメリカ。

藤, 桑其の他種々の灌木に寄生する。

4 同 上 (♂)

5 サンカクツノゼミ (♂) *Sipyris guttulinervis* Ma-

tsumura.

〔分布〕 臺灣 (V—XI)。

6 同 上 (♀)

Plate 47 同 翅 目

〔つのぜみ科〕

- 1 イボタマルツノゼミ (♀) *Gargara ligustri* Matsumura.

〔分布〕 本州、九州 (V—VII)。
イボタに寄生すると云ふ。著者は高尾山麓で藤に寄生せるものを捕獲した。稀種である。

- 2 ハコネマルツノゼミ (♀) *Gargara dōnitzae* Matsumura.

〔分布〕 本州、九州 (VII)。
高山に産するも稀、ハンノキに寄生する。最初箱根で発見せられたので上記の和名を附したが、著者は富士山太郎坊でもこれを獲た。

- 3 ウライマルツノゼミ (♀) *Gargara castanea* Kato.

〔分布〕 臺灣 (VI)。
これはサルトリイバラに寄生せる仔蟲を飼育して獲たものである。臺北州烏來にて発見した爲上記の和名を附した。

- 4 オビマルツノゼミ (♂) *Gargara fasciata* Kato.

〔分布〕 本州、滿洲 (V—VII)。
最初葛温泉で竹内吉藏氏が発見したものであるが、著者は高尾山で藤に寄生せるもの數頭を採集した。又菊地行道氏は滿洲安東でこれを採集して寄贈された。

- 5 ガランピマルツノゼミ (♂) *Gargara garampina* Matsumura.

〔分布〕 臺灣 (IV)。
和名は産地鷲鸞鼻を附したもの。

- 6 ヒメサンカクツノゼミ (♂) *Sipylus minutus* Kato.

〔分布〕 臺灣 (IV)。
(Type specimen)

- 7 スキゲンマルツノゼミ (♂) *Gargara suigensis* Kato.

〔分布〕 朝鮮、滿洲 (IV—VI)。
寫眞は滿洲産のもの。

PLATE 47

× 4

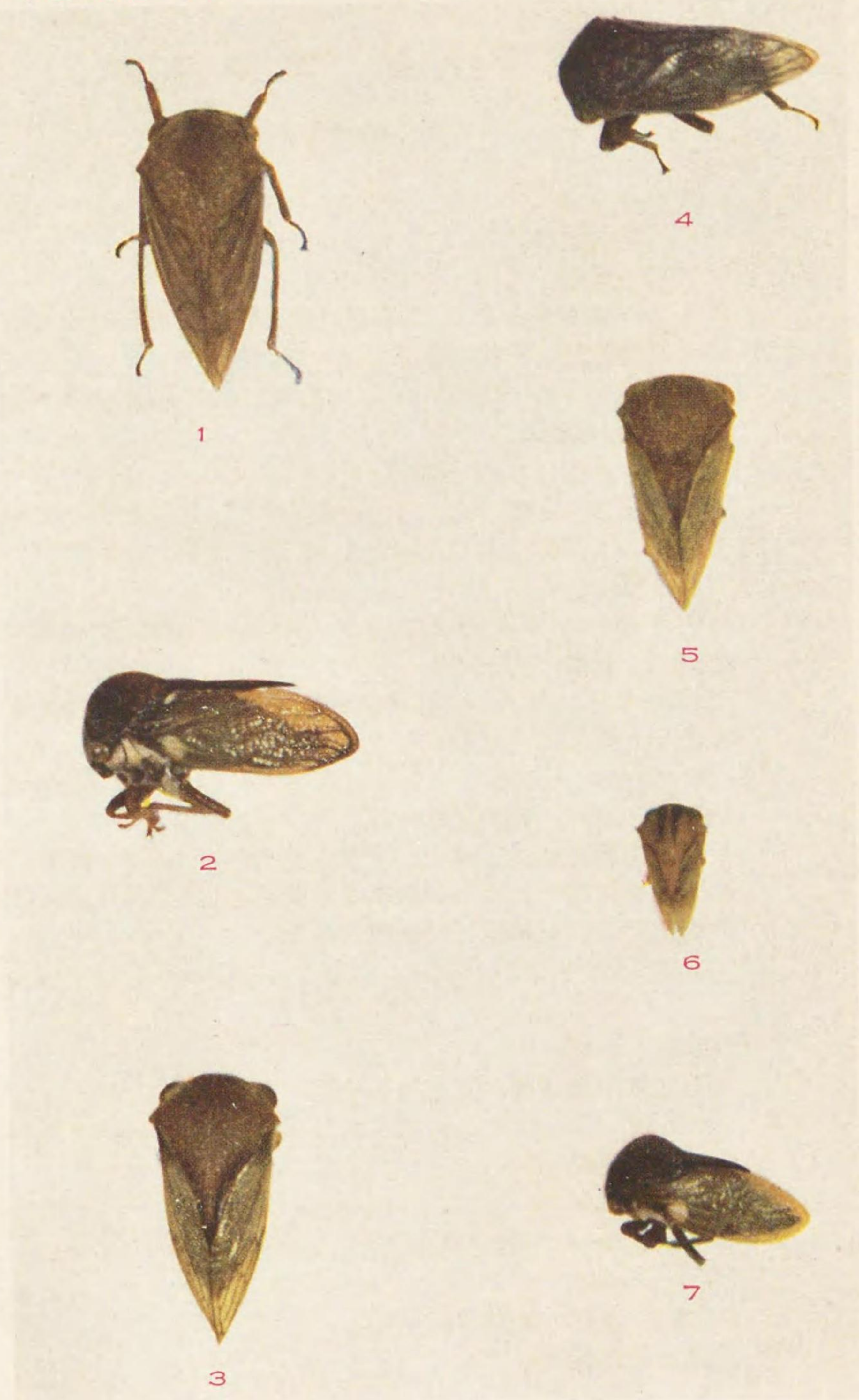




Plate 48 同翅目

〔つのぜみ科〕

- 1 タイトウマルツノゼミ(♂) *Gargara taitoensis* Kato.
〔分布〕 臺灣 (III)。
臺東産。(Type specimen)
- 2 タツパンマルツノゼミ (♀) *Gargara tappana* Matsumura.
〔分布〕 臺灣 (VII-X)。
タツパンと云ふのは蕃社の名。サルトリイバラに寄生する。
- 3 ボタンマルツノゼミ(♀) *Gargara botanshana* Kato.
〔分布〕 臺灣 (V)。
恒春牡丹社で獲たので此の名を附した。
- 4 タイホクマルツノゼミ(♀) *Gargara taihokunis* Kato.
〔分布〕 臺灣 (IV-V)。
桑に寄生せるものを採集した。Type specimen.
- 5 ベツコウマルツノゼミ (♂) *Gargara taikomontana* Kato.
〔分布〕 臺灣 (VI-XI)。
嘉義郡大坑山で発見したので上記の種名を與へた。クズに寄生する。
- 6 キアシマルツノゼミ(♂) *Gargara laticapitata* Kato.
〔分布〕 臺灣 (IV-X)。
- 7 オホマルツノゼミ (♀) *Gargara elegans* Kato.
〔分布〕 臺灣 (VI)。
本種は花蓮港の山地で獲たもので、マルツノゼミ屬中最大の種である。(Type specimen)
- 8 スヂグロマルツノゼミ (♂) *Gargara nigronervosa* Kato.
〔分布〕 臺灣 (XI)。
(Type specimen)
- 9 クロヘリマルツノゼミ (♀) *Gargara marginata* Kato.
〔分布〕 臺灣 (IX)。
新高山で獲たもの。(Type specimen)
- 10 キイロマルツノゼミ (♀) *Gargara picea* Kato.
〔分布〕 臺灣 (IX)。
(Type specimen)
- 11 チビマルツノゼミ (♂) *Gargara minuta* Kato.
〔分布〕 臺灣 (V-VII)。
日本産マルツノゼミ屬中最小形のもの。タカサゴユリに寄生する。

Plate 49 同翅目

〔つのぜみ科〕

- 1 ノウコウマルツノゼミ (♂) *Gargara nokozana* Kato.
〔分布〕 臺灣 (V-VII)。
能高山産。(Type specimen)
- 2 シンチクマルツノゼミ (♀) *Gargara shinchikuna* Kato.
〔分布〕 臺灣 (VII)。
新竹州の山地で獲たもの。これは後に嘉義郡大坑山でも採集した。
- 3 ホリシヤマルツノゼミ (♂) *Gargara horishana* Matsumura.
〔分布〕 臺灣 (V-VII)。
- 4 スキバマルツノゼミ (♀) *Gargara hyalina* Kato.
〔分布〕 臺灣 (V)。
- 5 ツマジロマルツノゼミ (♀) *Gargara alboapicata* Distant.
〔分布〕 臺灣 (X), 印度。
- 6 ヒメヲビマルツノゼミ (♂) *Gargara zonata* Matsumura.
〔分布〕 臺灣 (V-X)。
- 7 アリサンマルツノゼミ (♂) *Gargara arisana* Matsumura.
〔分布〕 臺灣 (V-X)。
- 8 ハグロマルツノゼミ (♂) *Gargara fumipennis* Kato.
〔分布〕 臺灣 (紅頭嶼) (IV)。
- 9 アリサンマルツノゼミ (♀) *Gargara arisana* Matsumura.
〔分布〕 臺灣 (VX)。
- 10 ハマダラマルツノゼミ (♀) *Gargara maculipennis* Funkhouser.
〔分布〕 臺灣 (V), フイリツピン, ボルネオ。
スモモに寄生せるものを採集。
- 11 ニイタカマルツノゼミ (♀) *Gargara elongata* Kato.
〔分布〕 臺灣 (VIII-IX)。
新高山産, 體色, 翅脈の色彩等に變化が多い。
- 12 モンキマルツノゼミ (♀) *Gargara dorsimacula* Kato.
〔分布〕 臺灣 (X)。
阿里山に産す。

PLATE 49

× 4





Plate 50 同翅目

〔つのぜみ科〕

- 1 ハナダカマルツノゼミ (♀) *Arisangargara gracilis* Kato.

〔分布〕 臺灣 (X)。

此の属は他の總てのツノゼミ類と異り、額片が膨起して恰もアハフキムシ類の様になつて居るのが特徴である。最初阿里山で發見したのを記念として *Arisangargara* なる新属名を與へた。總て高山性である。

- 2 ヘリグロハナダカマルツノゼミ (♀) *Arisangargara marginata* Kato.

〔分布〕 臺灣 (X)。

(Type specimen)

- 3 キイロハナダカマルツノゼミ (♀) *Arisangargara flava* Kato.

〔分布〕 臺灣 (X)

(Type specimen)

- 4 クロツヤハナダカマルツノゼミ (♂) *Arisangargara nigra* Kato.

〔分布〕 臺灣 (VII-X)。

- 5 同上, 正面圖

- 6 ベツコウハナダカマルツノゼミ (♀) *Arisangargara montana* Kato.

〔分布〕 臺灣 (X)。

(Type specimen)

- 7 アカツヤハナダカマルツノゼミ (♀) *Arisangargara nitida* Kato.

〔分布〕 臺灣 (V)。

- 8 クロヅハナダカマルツノゼミ (♀) *Arisangargara nigrifrons* Kato.

〔分布〕 臺灣 (VII)。

索引

同翅目 HOMOPTERA

せみ科 Cicadidae

つのぜみ科 Membracidae

〔名 稱〕 〔圖 版 番 號〕

い

イハサキクサゼミ	… … … … …	…33
イハサキヒメハルゼミ	… … … … …	…24
イハサキゼミ	… … … … …	…16
イボタマルツノゼミ	… … … … …	…47
イカリツノゼミ	… … … … …	…41
イシガキゼミ	… … … … …	…16

は

ハルゼミ	… … … … …	…32
ハナダカマルツノゼミ	… … … … …	…50
ハグロルリクサゼミ	… … … … …	…35
ハグロマルツノゼミ	… … … … …	…49
ハグロゼミ	… … … … …	…36, 37
ハマダラマルツノゼミ	… … … … …	…49
ハゴロモゼミ	… … … … …	…4, 5
ハコネマルツノゼミ	… … … … …	…47

に

ニイニイゼミ... .. 1,2
 ニイタカマルツノゼミ... .. 49
 ニイタカコヒグラシ 21
 ニトベツノゼミ 39

ほ

ホ、グロヒメハルゼミ... .. 25
 ホリシヤマルツノゼミ... .. 49
 ホリシヤコヒグラシ 20
 ホリヒグラシ... .. 22
 ボタンマルツノゼミ 48
 ボタンコツノゼミ... .. 45
 ホソコツノゼミ 42
 ホソヒメハルゼミ... .. 26, 27
 ボナベゼミ 38
 ホウライゼミ... .. 17
 ホッポヒメハルゼミ 30
 ホツポヒグラシ 25

へ

ヘリグロハナダカマルツノゼミ... .. 50
 ヘリグロコツノゼミ 43
 ベツコウハナダカマルツノゼミ... .. 50
 ベツコウツノゼミ... .. 41

ベツコウクサゼミ... .. 35
 ベツコウマルツノゼミ... .. 48
 ベツコウヒグラシ... .. 22

と

トゲナガツノゼミ... .. 39
 トビイロツノゼミ... .. 40
 トビイロクマゼミ... .. 13

ち

チツチゼミ 38
 チビマルツノゼミ... .. 48

り

リトウクサゼミ 33
 リウキウクマゼミ... .. 7
 リウキウアブラゼミ 2

る

ルリクサゼミ... .. 35

お, を

オホシマツクツク... .. 18
 オホマルツノゼミ... .. 48
 オホシマゼミ... .. 17
 ヲガサハラツクツク 14
 ヲガサハラゼミ 17
 ヲカモトチツチゼミ 38

ヲカモトコツノゼミ …… 45
 オビクサゼミ …… 34
 オビマルツノゼミ …… 46, 47
 オビコツノゼミ …… 43

わ

ワタナベヒグラシ …… 28, 29

か

カトウクサゼミ …… 33
 カレイゼミ …… 16
 カネジヤクツノゼミ …… 40
 カラフトチツチゼミ …… 38
 ガランピマルツノゼミ …… 47
 カノクサゼミ …… 33
 ガコウキゼミ …… 15
 カシヨウクマゼミ …… 8
 カンココツノゼミ …… 42

た

タイホクマルツノゼミ …… 48
 タイホクコツノゼミ …… 42
 タイヘイヒメハルゼミ …… 30
 タイトウマルツノゼミ …… 48
 タイワントビイロツノゼミ …… 40
 タイワンツクツクボウシ …… 15

タイワンツマグロゼミ …… 6
 タイワンクマゼミ …… 10, 19
 タイワンコツノゼミ …… 42
 タイワンアブラゼミ …… 36, 37
 タイワンヒグラシ …… 24
 タイワンヒメヒグラシ …… 13
 タイコウヒグラシ …… 23
 タイピンコツノゼミ …… 45
 タイピンヒグラシ …… 20
 タカネツノゼミ …… 39
 タカネゼミ …… 18
 タカヲコツノゼミ …… 43
 タカサゴクマゼミ …… 7, 8
 タカサゴゼミ …… 17, 18
 タロワンコヒグラシ …… 21
 タツパンマルツノゼミ …… 48

つ

ツチダゼミ …… 15
 ツノナガトビイロツノゼミ …… 40
 ツノゼミ …… 40
 ツクツクボウシ …… 14, 15
 ツマグロコツノゼミ …… 45
 ツマグロゼミ …… 5

ツマジロマルツノゼミ… … … … … 49

ね

ネグロクサゼミ … … … … … 34

な

ナガシマコエゾゼミ … … … … … 5

ナンバンクマゼミ… … … … … 11

む

ムシャコツノゼミ… … … … … 43

う

ウライマルツノゼミ … … … … … 47

ウライゼミ … … … … … 15

の

ノウコウマルツノゼミ… … … … … 49

く

クロイハニイニイ… … … … … 1

クロイハツクツクク … … … … … 14

クロイワゼミ … … … … … 33

クロヘリマルツノゼミ… … … … … 48

クロヅハナダカマルツノゼミ … … … … 50

クロツヤハナダカマルツノゼミ… … … … 50

クヤニヤコツノゼミ … … … … … 45

クマゼミ… … … … … 9

クサチツチゼミ … … … … … 38

クサゼミ… … … … … 33

クスクスヒメハルゼミ… … … … … 31

や

ヤヘヤマニイニイ… … … … … 1

ヤヘヤマクマゼミ… … … … … 11

ま

マヘグロクマゼミ… … … … … 8

マヘアカクサゼミ… … … … … 35

マルツノゼミ… … … … … 46

マルツノゼミモドキ … … … … … 43

け

ケナガニイニイ … … … … … 2

ケナガカネジヤクツノゼミ… … … … … 41

こ

コニイニイゼミ … … … … … 2

コウトウクマゼミ… … … … … 9

コウトウコツノゼミ … … … … … 42

コウトウヒメハルゼミ… … … … … 31

コウシユンハゴロモゼミ … … … … … 6

コマゼミ… … … … … 18

コブツノゼミ… … … … … 42

コエゾゼミ … … … … … 4

コシアキニイニイ… … … … … 36

コヒグラシ 20
コラシエヒメハルゼミ

え

エゾハルゼミ 27

エゾチツチゼミ 33

エゾゼミ 3, 12, 13

て

テウセンニイニイ 2

テウセンホソヒグラシ 28

テウセントビイロツノゼミ 43

テウセンチツチゼミ 38

テウセンクマゼミ 8, 9

テウセンミンミン 26

あ

アカツヤハナダカマルツノゼミ 50

アカエゾゼミ 3, 4

アリサントビイロツノゼミ 40

アリサンマルツノゼミ 49

アリサンヒメハルゼミ 32

アヲツラヒメハルゼミ 31

アヲモンクサゼミ 35

アブラゼミ 3

アシアカハダゼミ 37

さ

サカキヒメハルゼミ 28

サカグチゼミ 18

サウザンヒグラシ 23

サンカクツノゼミ 46

き

キイロハナダカマルツノゼミ 50

キイロクサゼミ 33

キイロマルツノゼミ 48

キバネコツノゼミ 43

キバネヒグラシ 22

キウシウエゾゼミ 5

キウシウヒグラシ 25

キアシクサゼミ 34, 35

キアシマルツノゼミ 48

†シタニイニイ 1

ゆ

ユミガタツノゼミ 41

み

ミドリチツチゼミ 33

ミカドミンミン 25

ミヤコニイニイ 1

ミミナガツノゼミ 39

ミミナガコツノゼミ 44

ミンミン… … … … … … … … 26

し

シカツノゼミ… … … … … … … … 40

シンチクマルツノゼミ… … … … … … … … 49

ひ

ヒグラシ… … … … … … … … 19, 21

ヒメハルゼミ… … … … … … … … 29

ヒメルリクサゼミ… … … … … … … … 35

ヒメタイワンコツノゼミ … … … … … … … … 44

ヒメラビマルツノゼミ… … … … … … … … 49

ヒメクサゼミ… … … … … … … … 33

ヒメコツノゼミ … … … … … … … … 44

ヒメサンカクツノゼミ… … … … … … … … 47

も

モジツノゼミ… … … … … … … … 44, 45

モンコツノゼミ … … … … … … … … 42

モンキマルツノゼミ … … … … … … … … 49

せ

セダカツノゼミ … … … … … … … … 39

セグロミンミン … … … … … … … … 27

セアカアブラゼミ… … … … … … … … 10

す

スチグロマルツノゼミ… … … … … … … … 48

スチアカクマゼミ… … … … … … … … 6, 12

スキゲンマルツノゼミ… … … … … … … … 47

スキシヤヒメハルゼミ… … … … … … … … 31

スキバマルツノゼミ … … … … … … … … 49

スキバコツノゼミ… … … … … … … … 45

昆虫趣味の會

入會のおすゝめ

今回私共は昆虫趣味の普及並に同好者の機關として昆虫趣味の會を組織しました。本會は機關雜誌「昆虫界」を發刊して會員の發表機關とし、又昆虫の名稱其他諸般の質問に應じます。雜誌は當分の間年六回の發行とし、後月刊にする予定です。その内容は大體次の如くであります。

1 學術論文 2 觀察記事 3 文學 4 紀行 5 讀者通信
6 會報 7 質疑、其他昆虫を中心とする諸般の記事。

會員としての制限は全くありません、小學生から専門學者迄網羅するものであります。本會が成立しますや、専門學者は勿論文學者、藝術家等諸方面の方々から非常な賛同を得ました。

本會は幾分なりとも學界に貢獻致し度い目的から次の諸事業を行ひます。

1 昆虫博物館の建設 2 郷土昆虫の調査 3 日本産昆虫
目録の完成 4 昆虫採集會 5 講演會 6 方言傳説の調査 7 其他

會費 一ケ年參圓

會則は郵券二錢を同封して下記事務所へ御申込下さい。

事務所 東京市世田谷區野澤町一丁目二五六

加藤正世方

昆虫趣味の會

分類原色日本昆虫圖鑑(同翅目)

昭和八年三月一日印刷・昭和八年三月五日發行



著者 加藤正世

發行者 岡本正一

東京市麹町區下六番町四十八番地

印刷者 谷口熊之助

東京市麹町區土手三番町廿九番地

印刷所 厚生閣印刷部

東京市麹町區土手三番町廿九番地

定價二圓五拾錢

東京市麹町區
下六番町四八

厚生閣

振替東京五九六〇〇番
電話 九段 三二一八番

原色日本昆蟲圖鑑《全十輯》

加藤正世著

日本産昆蟲の完全優秀のコレクションから、重要なもの三千種を厳選し、一四一四、直接標本より原色版製作を敢行したる本邦未刊の、眞に驚異的な分類原色日本昆蟲圖鑑である。

在來の筆寫着色による偽版ではない。徒に何百種何千種と誇張された凸版の畫集ではない。日本産昆蟲のみを以て、堂々三千種を網羅したる圖鑑は、既に本邦最初の尨大さであるばかりでなく、實に之が全原色版による標本直接の大蒐集は、未だ世界にその例なく、昆蟲を専門に研究する人々は勿論、之に興味を持つ一般人へ“一大標本室”を提供するものである。

本圖鑑は下掲の如く、全十輯、目別に分類整頓されてゐるが故に、又在來の圖鑑に見る携帶不便の弊なく、採集カバンの隅に入れて“携行に便”であり、且つその用途に添ふべく“昆蟲の鳴聲”を挿入してゐる一方、或る輯だけを希望する人達に“買ひよき便”がある等、苦心の跡見るべきものが多い。

まことに、斯の如く“聲”あり、“眞實の形”あり、“棲み家”を示し、然も“そのまゝの色彩”ある“堂々三千種の標本”を自己のものと爲し得る讀者は幸であると言はねばならぬ。

- | | |
|----------------------|--------------------|
| I 革翅目 (はさみむしの類) | VI 鱗翅目 (蝶) |
| 直翅目 (ばつた、きりぎりす類) | |
| II 蜻蛉目 (とんぼの類) | VII 鱗翅目 (蛾) |
| III 同翅目 (せみの類) | VIII 鞘翅目 (かぶとむしの類) |
| III 同翅目 (よこばい、らんかの類) | IX 鞘翅目 (") |
| 異翅目 (かめむしの類) | |
| V 脈翅目 (かげろうの類) | X 雙翅目 (あぶ、はいの類) |
| 積翅目 (かはげらの類) | 膜翅目 (はちの類) |

各輯 ¥ 2.50 <千.10>

子供の昆蟲學 ための

加藤正世著

昆蟲は子供の生活と離して考へることの出来ない生物であるが、この昆蟲を單なるムシケラとしてのみ玩弄する子供の生活は、その第一歩から不幸である。その興味を正しく指導し、子供の生活を科學的に訓練することは誠に緊要なことである。

然も若し、この指導の第一歩を誤れば、そのいゝ加減な知識から來る害は終生つき纏ふものであるが故に、子供には子供なりに、子供だましでなく、平易な“學術書”が與へられなければならない。

著者はこの意味から、挿繪寫眞の隅々に至るまで異常な注意を拂ひ、専ら子供の爲の昆蟲學書として他の追従を許さない正確な著述を完成した。

子供に喜びを與へ、父兄に信頼を得る“唯一の子供の昆蟲學書”として、自信を以て大方に推奨する。

四六判細布裝入二百五十頁 學術寫眞版二百餘挿入索引附 ¥ 2.30 <千.14>

フェアブル 蟲物語《全六卷》

農學博士 横山洞郎實際監修

フェアブルの有名な昆蟲記を、全部子供の爲に平易に書き直した“物語體の昆蟲書”である。科學知識を童話風の形式の中に織込んで餘さず、讀んでこの上なく面白く然も知らず識らずのうちに正確な知識を掴ませるといふ“一石二鳥式科學書”を完成したもの。譯著者は全部一流の童話家である。

- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| 第一卷 (こぼろぎ、きりぎりす其他)
水谷まさる譯著 | 第五卷 (餘類其他)
鎌田實吉譯著 |
| 第二卷 (くも類、ほたる其他)
今田眞吾譯著 | 第六卷 (松の木行列蟲其他)
濱田廣介譯著 |
| 第三卷 (こがねむし類其他)
千葉省三譯著 | 別冊 少年昆蟲採集法
厚生閣編輯部編著 |
| 第四卷 (せみ、かまきり其他)
須崎邦武譯著 | (採集の仕方、標本の作り方、其他) |

各冊 四六判美裝入三五〇頁 口繪其他挿繪豊富 各冊 ¥ 1.50 <千.12>

日本産蝶蛾の研究

中川元治郎著

量に於て未曾有の高峰を築き、その質に於て未だ類書の企て及ばざる新しき領域を拓く。昆虫學界稀に見る、蝶蛾の實に尙多彩なる研究書茲に愈々成る。専門書中に得難き参考文献として輝き、蝶蛾に興味を有する一般讀者への興味盡きざる面白い科學書として燦然独自の境に立つ。昆虫學者・理科教育者・圖案家・學生・アマチュア諸君への一大福音！

《内容一班》

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 第一章 昆虫學上の蝶蛾 | 第七章 習性 |
| 第一節 鱗翅學と鱗翅目 | 第一節 趨性 |
| 第二節 蝶蛾の數と大小 | 第二節 本能 |
| 第三節 蝶蛾の別 | 第三節 智的行爲 |
| 第四節 進化の系統 | 第四節 棲息 |
| 第二章 外部形態 | 第五節 移動 |
| 第一節 成蟲 | 第六節 營養 |
| 第二節 皮膚 | 第八章 適應 |
| 第三節 頭部 | 第一節 器官の變化 |
| 第四節 胸部 | 第二節 形態の變化 |
| 第五節 翅 | 第三節 色彩の變化 |
| 第六節 脚肢 | 第九章 蕃殖 |
| 第七節 腹部 | 第一節 氣候關係 |
| 第三章 内部組織 | 第二節 地勢關係 |
| 第一節 膜狀骨と内胸板 | 第三節 植物關係 |
| 第二節 筋肉系 | 第四節 動物關係 |
| 第三節 血管系 | 第五節 自然の均衡 |
| 第四節 神経系 | 第十章 人類との關係 |
| 第五節 消化器 | 第一節 有益蟲 |
| 第六節 呼吸器 | 第二節 有害蟲 |
| 第七節 生殖器 | 第三節 藝術化 |
| 第八節 腺 | 第十一章 分布 |
| 第九節 感覺器 | 第一節 大陸分布 |
| 第四章 發生 | 第二節 日本地位 |
| 第一節 發育 | 第三節 分布の變動 |
| 第二節 卵 | 第四節 傳播 |
| 第三節 幼蟲 | 第五節 原産地の決定 |
| 第四節 蛹 | 第十二章 分類 |
| 第五節 成蟲諸官の更新 | 第一節 自然分類 |
| 第六節 羽化 | 第二節 形式 |
| 第五章 生殖 | 第三節 蝶蛾の分類 |
| 第一節 種類 | 第十三章 小蛾亞目 |
| 第二節 交尾 | 第一節 蠶蛾群 |
| 第三節 性生活 | 第二節 葉捲蛾群 |
| 第四節 性の決定 | 第三節 鱗蛾群 |
| 第五節 雌雄の數 | 第四節 鳥羽蛾群 |
| 第六章 經過 | 第十四章 大蛾亞目 |
| 第一節 化生と同數 | 第一節 尺蛾 |
| 第二節 成蟲の生活期 | |
| 第三節 一生 | |

菊判洋布裝函入 挿入寫眞版 五八〇頁索引附 三百八十餘 5.80 <.22>



486

Ka641b



00268549